

令和8年度 履修ガイド (Gコード科目)

2026

【目次】

1 教養教育に関する科目の履修	27
2 新入生の修学上の留意事項	77
3 総合教育研究棟の諸施設の利用等	78
4 総合教育研究棟講義室・実験室等配置図	80
5 キャンパス建物配置概略図	82
6 Q&A	84



目 次

1	教養教育に関する科目の履修 -----	27
(1)	新潟大学の教養教育とメジャー・マイナー制-----	27
(2)	2学期クォーター制について -----	28
①	2学期クォーター制の導入のメリット -----	28
②	授業期間について -----	28
③	授業の開講形態について-----	28
(3)	教養教育に関する科目とGコード科目 -----	29
①	開講番号について -----	29
②	授業科目名について -----	30
③	Gコード科目時間割の作り方（第1年次学生）-----	30
(4)	Gコード科目の履修手続 -----	31
	《コラム》開講番号と科目区分 -----	32
	《コラム》Gコード科目の抽選に外れてしまっても大丈夫！-----	33
(5)	Gコード科目の試験等修学上の注意・参考事項 -----	34
①	試験 -----	34
②	追試験 -----	34
③	授業科目の評価 -----	34
④	成績評価に対する疑義照会及び不服申立てについて -----	34
	Gコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立てに関する留意事項-----	35
	Gコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立ての手続き等について	36
⑤	授業の欠席 -----	37
⑥	履修の途中放棄 -----	37
⑦	単位 -----	37
⑧	教員への連絡 -----	37
⑨	講義室等の場所 -----	37
⑩	授業中の注意 -----	37
(6)	Gコード科目の履修手続の詳細 -----	38
①	英語 -----	38
②	初修外国語 -----	53
③	公的語学検定の単位認定 -----	57
	新潟大学学則第56条第1項の規定による「文部科学大臣が別に定める学修」の 英語及び初修外国語に関する科目における単位認定の取扱要項-----	58
④	健康・スポーツ -----	70
⑤	留学生基本科目 -----	73
⑥	自然系共通専門基礎 -----	75
⑦	情報リテラシー，新潟大学個性化科目，大学学習法，自然科学， 人文社会・教育科学及び医歯学 -----	76

2	新入生の修学上の留意事項	77
(1)	学生証	77
(2)	在籍番号	77
(3)	学生への連絡・通知	77
(4)	学生教育研究災害傷害保険	77
(5)	盗難に注意	78
3	総合教育研究棟の諸施設の利用等	78
(1)	校舎出入口の開錠及び施錠の時間	78
(2)	施設の利用	78
(3)	学生掲示板の使用等	78
(4)	その他の注意事項	79
4	総合教育研究棟講義室・実験室等配置図	80
5	キャンパス建物配置概略図	82
(1)	五十嵐キャンパス建物配置概略図	82
(2)	旭町キャンパス建物配置概略図	83
6	Q&A	84
(1)	授業	84
①	クォーター制について	84
②	一般事項	84
③	欠席	85
(2)	履修	85
①	履修手続き	85
②	履修相談	89
(3)	成績	89
(4)	学務情報システム	89
(5)	放送大学との単位互換について	90
	令和8年度に履修可能な放送大学の授業科目及び単位（公示）	91
(6)	忘れ物・盗難	92
(7)	その他	92

1 教養教育に関する科目の履修

(1) 新潟大学の教養教育とメジャー・マイナー制

近年の環境と社会の変化は早く過酷です。この時代を生きる私たちには、惑星全体の持続可能な在り方を考え、構築する義務が課されています。いまこそ私たちは知識を結集してその姿を描き出さねばなりません。新しい価値を創造し、新しい経済の循環を促し、新しい社会への転換に貢献することが、大学の果たすべき役割として期待されているのです。

このような観点に立つとき、専門分野のみならず他分野について知ることの重要性が増してきます。なぜなら、他分野の学びこそが専門分野を掘り起こす道具となり、新しい実を育てる糧となるからです。そのようにして身につく柔軟な知識や学びの態度こそ学修者の教養を高めるものだといえるでしょう。

本学では、教養教育は以下のような教育目的を達成するためにあると考えています。

- (1) 専門的な知識を、広い視野や知見の下で総合的・批判的な視点から意味づける能力を培う。
- (2) 多様化した高等学校教育から大学教育への転換・導入教育として、また大学院教育に接続する学士課程教育として、主体的に学ぶ能力を培う。
- (3) 知識集約型社会への変化に対応した外国語運用能力や異文化の理解力、情報技術やデータサイエンスに関する理解と運用能力（情報を読み解き、分析・運用する）、学術的な文章表現の能力（自らの考えを共有可能な形式で書き表す）を培う。

教養教育に関しては、各学部が本学で開講される全授業科目から「教養教育に関する授業科目」の範囲を指定し、学生がその中から自分の学修目的にかなう科目を選択履修する方法が基本です。授業科目には、学問分野を示す分野コードと、学問分野内の位置付けを示す水準コードが付してありますから、学生は分野・水準コードを指標にして科目を選ぶことができます。所属学部の専門分野とは異なる他の分野の科目にも果敢に挑戦してください。他分野について、ある程度体系的な学修をすることで、専門分野の学問的位置がより明確に把握できます。また、様々な課題を多面的に理解するよう努める能力を育むこともできるでしょう。

メジャー・マイナー制というしくみが、このような多様な学びを促すためにも役立ちます。マイナーは自分の専門分野（メジャー）以外の専門分野という意味ですが、各学生が自らの学びの目標に応じて柔軟に履修計画を立てられる部分のことを指します。

本学には多様なマイナー・プログラムがあり、各学部の基礎的な専門科目で構成されているものも、教養教育に関する授業科目が主体のものもあります。近年の高等教育は、専門か教養かという区別を越えた学び方によって変わってきており、何を学んだかについて、学修者自身が意味づけをすることが求められています。本学での学びを更に豊かにするためにも、多くの学生の皆さんがマイナー・プログラムの履修に挑戦することを期待しています。

なお、各学部の教育課程には特色があります。その中でどのようにして他分野を結びつけた学士課程教育を編成するかは、各学部の教育目標に基づく判断に委ねられています。したがって、皆さんは、語学やグローバル理解、IT や文章表現といったリテラシーと他分野の学びを専門分野の学びとどのように結びつけるかについて、所属学部の方針や履修ガイドに示された条件等にも十分注意を向けて履修計画を立ててください。

(2) 2学期クォーター制について

新潟大学では平成29年度から全学生を対象に「2学期クォーター制」を導入しました。2学期クォーター制とは、ひとつの年度を二分した第1学期・第2学期をさらに半分に分けた「クォーター（ターム）」ごとに授業を行う制度です。

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1学期						第2学期					
第1ターム			第2ターム			第3ターム			第4ターム		
授業			授業			授業			授業		
夏休み						春休み					

① 2学期クォーター制の導入のメリット

1つめのメリットは、留学やインターンシップ等の課外活動に参加しやすくなることです。計画的な履修により空白のタームを確保することで、長期の課外活動に在学したまま参加することができ、4年間で卒業することも可能となります。夏休み等の期間を組み合わせることで、より長期の課外活動にも参加することが可能です。

2つ目のメリットは、8週の授業期間で短期集中的に学修することで学修効果を高められることです。

② 授業期間について

令和8年度の授業期間は以下のとおりです。

学期	ターム	授業期間
第1学期	第1ターム	4月 8日 ~ 6月 8日
	第2ターム	6月 10日 ~ 8月 5日
第2学期	第3ターム	10月 2日 ~ 12月 1日
	第4ターム	12月 3日 ~ 2月 12日

③ 授業の開講形態について

科目の特性や学修効果にあわせて1)～5)のパターンで授業を開講します。

1) 週1コマ×8週

授業期間が従来の半分となることにともない、1科目当たりの単位数も半分になります。このため、多くの科目は二分割された前半部分と後半部分の両方を履修することが基本となります。

2) 週2コマ×8週（曜日セット開講）

月曜日と木曜日、火曜日と金曜日など、授業と授業の間に期間を開けて、週2回授業を行うもの。

3) 週2コマ×8週（2コマ連続開講）

1・2限連続や3・4限連続など、2つの授業時間をつなげて授業を行うもの。

4) 週1コマ×16週（セメスター開講）

従来どおりの学期単位16週で授業を行うもの。

5) その他

初修外国語など、上記以外のパターンで開講されるもの。

(3) 教養教育に関する科目とGコード科目

新潟大学では、教養教育と専門教育の枠を取り払い、原則どの学部の学生であっても全ての授業科目を履修することができます。また、どの科目を「教養教育に関する授業科目」とし、どの科目を「専門教育に関する授業科目」とするかは、各学部の「学部規程」に定められています。皆さんが卒業までにこれらの授業科目をどのように履修すべきかについては、所属学部のガイダンスで説明があります。必ずガイダンスに出席し、内容をよく聞き、学部規程に従って履修計画を立て、時間割を作成してください。

英語や初修外国語など主に全学部の学生を対象としたもので、学務部教務課が所管する科目を「Gコード科目」といいます。Gコード科目は、下表の11区分に「科目区分」し、更に「細区分」して開設します。具体的な授業科目とその内容は、「授業科目開設一覧」や学務情報システム「シラバス参照」で確認することができます。

Gコード科目は多くの学部で「教養教育に関する授業科目」となりますが、**Gコード科目以外の科目を履修することで「教養教育に関する授業科目」を充足させることも可能**です。詳細は、所属学部の学務係で確認してください。(33, 87ページ参照)

① 開講番号について

開講番号は、学期、科目区分によって、次の表のように付番しています。

Gコード科目開講番号一覧

科目区分	第1学期		第2学期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
英語	26xG0001～		26xG0501～	
初修外国語	26xG1001～		26xG1501～	
健康・スポーツ	26xG2001～		26xG2601～	
情報リテラシー	26xG3001～		26xG3501～	
新潟大学個性化科目	26xG3201～		26xG3701～	
留学生基本科目	26xG4001～		26xG4501～	
大学学習法	26xG4201～		26xG4701～	
自然系共通専門基礎	26xG5001～		26xG5501～	
自然科学	26xG6001～		26xG6501～	
人文社会・教育科学	26xG7001～		26xG7501～	
医歯学	26xG8001～		26xG8501～	

(備考) 開講番号のGは、Gコード科目を示すコードです。

第1学期は001番、第2学期は501番から始まります。

集中講義は、下3桁目が900番から始まります。

xは、開講形態により値が異なります。(該当タームを示す)

第1ターム科目「261G～」第2ターム科目「262G～」

第3ターム科目「263G～」第4ターム科目「264G～」

セメスター科目、集中講義等「260G～」

② 授業科目名について

全ての授業科目に、科目名と開講番号(授業科目を特定するための番号)が付与されています。同じ科目名のクラスが複数開設されている場合がありますが、**原則として同じ科目名の授業は、複数単位を修得しても1つ分しか卒業要件単位に含むことはできません(一部科目を除く。詳しくは所属学部の学務係にお問い合わせください)**。

科目名の末尾に、A, B, CやI, II等の記号が付いている科目があります。A, B, Cは、同じ科目名でも授業内容が異なることを意味します。I, IIは、段階的な履修が望ましいことを意味します。つまり、IIの授業は、Iの授業内容を知っていることを前提として進められます。

また、シラバスにおいて、異なる科目名でも重複しての履修を認めていない旨の明記がされているものについてはシラバスに従ってください。なお、「自然系共通専門基礎」の物理学基礎については76ページに重複履修に関する注意が記載されています。

③ Gコード科目時間割の作り方(第1年次学生)

Gコード科目は、語学と健康スポーツ科学実習Iを除いては、原則として自分で履修科目を選択します。

そのため、学生の皆さんは、自分に合った個人時間割を作成し、それに沿って授業を受けていかななくてはなりません。入学して間もない皆さんにとって、自分の時間割を作成するのはなかなか大変なことだと思いますが、大学での勉強の第一歩として頑張ってください。

時間割の完成までの手順は、概ね次のようになります。

履修ガイダンスで必要な科目や単位、手続き方法を確認します。
疑問があれば、所属学部の学務係などで確認してください。



各科目の内容、学期、曜日、時限を知りたい場合は、学務情報システムの「シラバス参照」により確認できます。
学務情報システムの「履修関係操作手順書」を参考に操作方法を確認しましょう。



最初に次の科目の曜日・時限を決定してください。

1. 学部・学科指定のある次の科目
 - a) 英語(入学時にクラス指定がされています。)
 - b) 初修外国語(入学時にクラス指定がされています。)
 - c) 健康スポーツ科学実習I
2. 学部・学科で定める必修科目



上記以外の科目の曜日・時限を決定してください。

第1希望の科目(クラス)が、定員オーバーなどの理由で、履修できないことがありますので、あらかじめ第2, 第3希望の科目(クラス)を検討しておいてください。

なお、英語及び初修外国語については、必修科目などのバッティングにより指定されたクラスの履修ができない場合等に対応するため、履修相談室を設けています。（52、57ページ参照）

(4) Gコード科目の履修手続

授業を履修するには、所定の期間に、学務情報システム(以下 Web という。)により登録や削除の手続きを行わなければなりません。加えて、体育実技の科目については、別に必要な手続があります。各手続の日程は次ページ以降で確認してください。



Web の操作方法については、学務情報システムログイン後の「**操作手順 (学生)**」(ダウンロードアイコン内に添付)をご覧ください。

Web の操作方法については、学務情報システムログイン後の「**操作手順 (学生)**」(ダウンロードアイコン内に添付)をご覧ください。

学務情報システムのログイン画面。

<https://gakujo.iess.niigata-u.ac.jp/campusweb/>

履修手続のうち、**履修申請の作業は第1回目の授業日の前日まで**に行う必要があります。授業実施曜日により期限が異なりますので、注意してください。



履修登録画面。

希望する科目を、授業前日までに登録します。

履修の許可/不許可は、「履修許可確認・削除可能期間」内に Web 上で確認することができます。手動抽選科目で第1回目の授業までに履修者が決定しておらず定員を大きく上回った場合など、第1回目の授業の際に授業担当教員が口頭等で履修の許可/不許可を伝える場合がありますので第1回目の授業に必ず出席してください。口頭等で発表された場合でも、「履修許可確認・削除可能期間」内に Web 上で許可/不許可を必ず確認してください。

履修が許可されなかった場合、「履修登録追加期間」に、他の曜日・時限のその科目を選ぶか、あるいは他の科目に変える等しなければなりません。手続きが遅れるほど履修が許可されない場合が多いので十分注意してください。

履修が許可された科目を取り消す場合は、「履修許可確認・削除可能期間」内に必ず取消手続きを Web 上で行ってください。疑義がある場合、この期間内に、教務課教育実施係（総合教育研究棟A棟1階③教務課窓口）に申し出てください。

注意！！

期間内にこれらの確認を怠ると、受講していた授業の成績がつかなかったり、身に覚えのない科目が途中放棄になっていたり、思いもよらない事態が起こり得ますので必ず確認してください。

《コラム》 開講番号と科目区分

本学で開講されるすべての授業科目には26 x G0000といった「開講番号」が付けられており、開講番号に含まれる英字により「Hコード科目」、「Tコード科目」、「Gコード科目」などと呼んでいます。英字は、下記に示す学部等が主として所管する科目であることを表しています。詳しくは「[新潟大学授業科目開設一覧](#)」で確認してください。

開講番号の英字	関係部局等	開講番号の英字	関係部局等
A	農学部	L	法学部
D	歯学部	M	医学部
E	経済科学部	S	理学部
G	学務部教務課	T	工学部
H	人文学部	X	創生学部
K	教育学部		

《コラム》 Gコード科目の抽選に外れてしまっても大丈夫！

履修登録の抽選でGコード科目に外れてしまうと、「もう“教養教育に関する科目”は取れないのでは…？」と不安になるかもしれません。

でも、安心してください。

多くの学部では、所属学部以外の「他学部コード科目」も、Gコード科目と同じように「教養教育に関する科目」（以下、教養科目といいます）としてカウントされます。

ここでは、教養科目の単位を修得する方法をご紹介します。

●教養科目を取るなら、マイナー・プログラムがおすすめ

教養科目を履修するのであれば、最初からマイナー・プログラムを目指すのもおすすめです。

マイナー・プログラムは、所属学部とは異なる分野を体系的に学べるよう設計されています。

他学部生でも履修しやすい科目があらかじめ組み込まれているため、計画的に学修を進めることができます。マイナー・プログラムで履修した科目は、多くの学部で教養科目としてカウントされます。そのため、**教養科目の単位を充足しながら、マイナー修了も目指せる“二つのメリット”があります。**また、途中でマイナー・プログラムの履修をやめた場合でも、それまでに修得した科目は教養科目の単位として活用できます。

マイナー・プログラムは、総合大学の強みを生かした分野横断的な学びができる仕組みです。将来の進路や就職活動の際に、自分の学びを具体的に説明できる材料にもなります。関心のある分野があれば、早い段階から挑戦してみるのもよいでしょう。

なお、マイナー・プログラム修了の認定を受けるには、事前の登録が必要です。マイナー・プログラムから科目を選択した際には、必ず事前登録も行ってください。詳細は10ページを参照してください。

●他学部コード科目の探し方

他学部コード科目を探す場合は、シラバス検索で「**水準 03：全学学生受入可・大学基礎水準**」を選択してください。全学部の学生が履修できる科目を見つけやすくなります。

Gコード科目だけにこだわらず、ぜひ自分の興味や関心のある分野にも目を向けてみてください。大学では、自分で選んだ学びが将来の可能性を広げていきます。

※学部や科目によって取扱いが異なる場合があります。詳しくは、所属学部の学務係またはNICEプログラム室へお問い合わせください。

※履修にあたっては、必ず授業担当教員の指示に従ってください（10・29・87ページ参照）。

(5) Gコード科目の試験等修学上の注意・参考事項

① 試験

Gコード科目の試験の日時、方法(筆記試験、レポート等)は、原則として Web により通知されます。見落とししたり、見誤ると重大な不利益を被ることがありますので、十分注意して確認する習慣をつけてください。

試験(レポート等を含む)において不正行為をした学生に対しては、当該試験を無効とするだけでなく、厳しい処分が課せられます。不正行為を行わないことはもとより、机の上に許可されたもの以外置かない、携帯電話等の電源は切って身につけない、その他の指示に従う等、監督教員から疑惑や注意を受けることのないよう心がけてください。

② 追試験

やむを得ない理由(病気、定期運行している交通機関の遅れ、忌引等)で試験を受験できない者又はできなかった者には、追試験を認めることがあります。

ただし、そのような状況が生じた場合、**直ちに教務課教育実施係へ連絡**(総合教育研究棟A棟1階③窓口、電話：025(262)6307又は6308)し、**4日以内(土日・祝日含まず)に証明書(病気の場合は医師の診断書または診療明細書等、定期運行している交通機関の遅れの場合は遅延証明書、葬儀の場合は会葬礼状など)を添えて、申請手続**を行わなければなりません。4日以内に手続きができない場合は、あらかじめ、その旨申し出てください。

③ 授業科目の評価

授業科目の評価は、100点満点をもって評価され、60点以上を合格、59点以下は不合格となります。合格すると所定の単位が与えられます。

成績の評語及び基準は、次のとおりです。

点数	評語	基準
100点～90点	秀	授業科目の目標を超えている。
89点～80点	優	授業科目の目標に十分達している。
79点～70点	良	授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。
69点～60点	可	授業科目の目標の最低限を満たしている。
59点～0点	不可	授業科目の目標の最低限を満たしていない。

④ 成績評価に対する疑義照会及び不服申立てについて

Gコード科目の成績評価に対して疑義がある場合は、所定の様式により学務部教務課教育実施係へ申し出ることにより、担当教員から回答を受け取ることができます。また、疑義照会の回答によっても疑義が解消されない場合、別途所定様式を学務部教務課教育実施係へ提出することにより、不服申立てを行うことができます。詳細は、次ページ「Gコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立てに関する留意事項」および「Gコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立ての手続き等について」を参照してください。

Gコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立てに関する留意事項

新潟大学教育基盤機構
教学マネジメント部門

1. Gコード科目の成績に関して疑義がある場合、成績評価に関する疑義照会書(所定様式)に必要事項を記入のうえ、学務部教務課へ提出することにより、担当教員から当該疑義に対する回答を受け取ることができます。しかし、疑義照会にあたっては、次の点に留意してください。

【成績評価の疑義照会に関する留意事項】

成績評価の疑義照会ができるのは、自らの成績への疑義に明確な根拠がある場合のみです。疑義の内容が具体的に示されていないと、受け付けられない場合もあります。特に、単なる再評価を求めるもの、救済してほしいといった希望や懇願的な内容のもの、低い評価に対する個人的感情に基づくもの、他者の扇動によると思われるもの等は受け付けられません。

このことについて、具体的には次のような事例を参考にしてください。

受付できる事例

- 1) 成績の誤記入等、明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。
- 2) シラバスに記載されている成績評価の基準及び方法に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの(ただし、成績評価の基準や方法について変更される場合もあるので教員から連絡がなかったか注意すること)。

受付できない事例

- 1) 担当教員に情状を求めるもの。
「進級に関わる」、「卒業に関わる」、「この単位があれば卒業できる」等
 - 2) 具体的な根拠がなく、他の学生と対比して単に不満を訴えるもの。
「友人は80点だが、なぜ自分は70点なのか」等
 - 3) 具体的な根拠がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。
「がんばったと思うのだが、どうして60点なのか」等
- ※ 2), 3) の場合であっても、明確な根拠の提示がある場合は受付可。

2. 疑義照会後の教員からの回答によっても疑義が解消されない場合は、「成績評価に関する不服申立書」(所定様式)に必要事項を記入のうえ、学務部教務課へ提出することにより、成績評価に関する「不服申立て」を行うことができます。

【成績評価の不服申立てに関する留意事項】

不服申立てができるのは疑義照会により得られた回答が曖昧で教員の説明が不明確な場合のみです。どのような点が不明確であるのか、申立者により具体的に示されていないと、受け付けられない場合もあります。特に、教員による回答が合理的であるにもかかわらず単に「食い下がる」もの、照会結果に必要以上の説明を求めるものは受け付けられません。

不服申立てが受け付けられた後は、教学マネジメント部門が教育基盤機構の関連部署と協力しながら、該当科目の成績評価について審査をします。その過程で、申立者または担当教員に評価材料(レポート、答案など)の提出を求め、採点や評価方法が妥当であるかを検討します。この手続きには、時間を要することもありますので、留意しておいてください。

Gコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立ての手続き等について

Gコード科目の成績評価に関する疑義照会及び不服申立てを行う場合は、「留意事項」を確認の上、以下の要領で手続きを行ってください。

■受付期間

・疑義照会

当該年度の「履修手続き等の日程」に示す各タームの成績確認開始期日から20日以内（日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日は含めない。集中講義等、成績確認開始期日に成績が未開示の科目は、成績が開示された日から20日以内）を期限とします。

・不服申立て

疑義照会に対する回答があった日から3日以内（日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日は含めない。）を期限とします。

■所定様式

以下のURLからダウンロードできます。

【新潟大学 教育基盤機構】ウェブサイト > 授業科目関連

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/intramural.html>

■提出方法

所定様式を印刷して記入し、「成績確認表」を添付の上、総合教育研究棟A棟1階③番窓口（教務課）に提出してください（「学生証」を持参の上、本人が提出すること）。

（窓口開設時間：平日 8:30～17:15）

⑤ 授業の欠席

やむを得ない理由で授業に出席できない場合は、自分で授業担当教員へ申し出てください。あらかじめ申し出ることができない場合は、後日その授業の際に申し出るようにしてください。その際、欠席事由を証明できるものがあれば（医者の診断書、他の授業の実習要項、葬儀の際の会葬礼状など）持参してください。なお、**いわゆる公欠の制度はありません。**また、病気や怪我等で2週間以上続けて授業を欠席する場合は速やかに所属する学部の学務係へ申し出てください。

⑥ 履修の途中放棄

授業科目の中には、履修希望者が定員を著しくオーバーし、履修したくとも履修できない学生が多数出ている科目があります。一方、履修許可されながら、取消手続きをせず、授業に出席しない(途中放棄する)学生がいます。

履修科目の選定に当たっては、シラバスを良く読んで興味を持った科目に限るなど、精選するようにしてください。また、履修を許可されたが履修しないことにした場合には、所定の期間内に取消手続きをしてください。取消手続きを行わない場合、途中放棄とみなされ成績に影響します。

⑦ 単位

各授業科目の単位数は、大学設置基準において「一単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とする旨、定められています。大学設置基準に則り、新潟大学学則第49条においては、「授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。」と定めています。具体的には、30時間の授業をもって1単位とする授業科目の場合、45時間から30時間を引いた15時間は授業時間外(教室外)の学修を必要とすることを意味していますので、学生は自主的に学修を行い、学力の充実をはからなければなりません。

⑧ 教員への連絡

授業担当教員の電子メールアドレスは、「学務情報システム内のシラバス参照」から調べることができます。教員氏名のリンクをクリックすると、教員の連絡先メールアドレスが表示されます。

非常勤講師は、学内に研究室はありませんので、その教員の授業の前後等に連絡をとってください。

⑨ 講義室等の場所

総合教育研究棟の講義室等の場所は後述の「4 総合教育研究棟講義室・実験室等配置図」を参照してください。講義室等の場所がわからず遅刻することのないよう、授業開始の前までに下見をして講義室等の位置を確認しておいてください。

⑩ 授業中の注意

私語を慎み、授業途中での教室の出入りをしない、携帯電話等のマナーを守る等、他の履修者の迷惑になることを厳に慎んでください。

(6) Gコード科目の履修手続の詳細

① 英語

みなさんは小学校、中学校、高等学校での英語学習を通して、英語についての基本的知識・技能を学んできました。新潟大学では、みなさんが入学時点で習得している一般目的の英語 (English for General Purposes) の運用能力を基礎とし、あらゆる専門に共通する一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力と、大学生にふさわしい思考力や表現力を養成します。これが、学部・大学院で必要とされる特定学術目的の英語 (English for Specific Academic Purposes) の基盤となります。

1年次は、第1・第2タームに選択科目や自主学習で英語力を強化し、第3・第4タームに一般学術目的の英語を扱う必修科目を中心に履修します。2年次以降も中・上級の選択科目を履修できますから、卒業までに英語の運用能力を十分に強化しましょう。なお、「英語基礎L」と「英語基礎R」は「人文社会・教育科学」という区分に入る科目ですので、「英語」区分の最低履修単位を満たす単位には利用できません。(学部学科によっては、卒業要件単位に含まれない可能性もあります。詳しくは所属学部学科の学務係に確認してください。)

*令和2年度理学部・工学部・農学部・創生学部入学者、および令和元年度以前の入学者(全学部)は、必修科目として履修すべき科目が異なります。詳細は所属学部/学部の学務係に確認してください。編入学生の履修についても所属学部/学部の学務係に確認してください。

以下に次の順で説明します。

ア 英語授業科目の紹介

- 1年次選択科目
- 1年次必修科目 (法学部では選択科目)
- 選択集中科目
- その他の選択科目

イ スーパー英語 Academic Express 3 による学習について

ウ 学部別英語履修案内

エ 各英語授業科目の履修登録要領

オ 再履修者の履修登録要領

カ 英語履修相談室

ア 英語授業科目の紹介

● 1年次選択科目

※選択科目は定員超過などの理由により、希望通りのクラスが履修できないこともありますので、担当教員による聴講許可が下りるまでは、シラバスに記載の教科書を購入しないでください。

英語基礎L (English Basics L) : 第1ターム・週2回×8週授業 (または第1・第2ターム・週1回×16週授業) ・1単位 ・1年生対象

この授業では、英語の音・音変化を学びなおし、一般目的の英語 (English for General Purposes)

のうち、平明な英語で話される会話やアナウンスを聴いて正確に理解する力を養成します。第3・4ターム開講の必修科目「アカデミック英語入門L」の履修に向けて、リスニングを中心とした基礎的な英語運用能力を補うための科目です。対象となるのは、大学入学共通テスト「英語」のリスニングが100点満点中60点未満の学生です。それ以上の実力のある人が履修すると期待に添えない可能性がありますので、履修は差し控えてください。

※「英語基礎L」は「人文社会・教育科学」という区分に入る科目ですので、「英語」区分の最低履修単位を満たす単位には利用できません。(学部学科によっては、卒業要件単位に含まれない可能性もあります。詳しくは所属学部学科の学務係に確認してください。)

英語基礎 R (English Basics R) : 第2ターム・週2回×8週授業 (または第1・第2ターム・週1回×16週授業) ・1単位・1年生対象

この授業では、英文法を体系的に学びなおし、一般目的の英語(English for General Purposes)のうち、平明な英語で書かれた文章を読んで正確に理解する力を養成します。第3・4ターム開講の必修科目「アカデミック英語入門R」の履修に向けて、文法の知識やリーディングを中心とした基礎的な英語運用能力を補うための科目です。対象となるのは、大学入学共通テスト「英語」のリーディングが100点満点中60点未満の学生です。それ以上の実力のある人が履修すると期待に添えない可能性がありますので、履修は差し控えてください。

※「英語基礎R」は「人文社会・教育科学」という区分に入る科目ですので、「英語」区分の最低履修単位を満たす単位には利用できません。(学部学科によっては、卒業要件単位に含まれない可能性もあります。詳しくは所属学部学科の学務係に確認してください。)

● 1年次必修科目 (法学部では選択科目)

アカデミック英語入門 L (Introduction to Academic English L) : 第3・第4ターム・週1回×16週授業・1単位・1年生対象 (医学部医学科を除く)

この授業では、一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力のうち主に聴解力を養成し、専門分野で必要となる特定学術目的の英語 (English for Specific Academic Purposes) の土台づくりを行います。この授業では、入試成績等(*)に基づいた習熟度別クラス編成が行われます。

アカデミック英語入門 R (Introduction to Academic English R) : 第3・第4ターム・週1回×16週授業・1単位・1年生対象 (医学部医学科を除く)

この授業では、一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力のうち主に読解力を養成し、専門分野で必要となる特定学術目的の英語 (English for Specific Academic Purposes) の土台づくりを行います。この授業では、入試成績等(*)に基づいた習熟度別クラス編成が行われます。

実践コミュニケーション英語 I (Practical Communication English I) : 第1・第2ターム・週1回×16週授業・1単位・医学部医学科1年生対象

医学部医学科1年生を対象として開講され、実践的な英語運用能力、特に、一般学術目的の英語(English for General Academic Purposes)でのリスニング力とスピーキング力を養成します。この授業では、入試成績等(*)に基づいた習熟度別クラス編成が行われます。

実践コミュニケーション英語 II (Practical Communication English II) : 第3・第4ターム・週1回×16週授業・1単位・医学部医学科1年生対象

医学部医学科1年生を対象として開講され、一般学術目的の英語(English for General Academic Purposes)でのリーディングとライティングにディスカッションを交えて、大学での学習や研究に必要な英語の総合的な運用能力を養成します。「実践コミュニケーション英語II」のクラスは、「実践コミュニケーション英語I」と同じクラスです。

*「入試成績等」とは、大学入学共通テスト成績、個別試験成績、調査書の評点等を示します。なお、これらは習熟度別クラス編成の参考としてのみに限定して利用し、その他の目的には一切使用しません。

●選択集中科目

iStep (アイ・ステップ) : 第2ターム集中・週4回×8週授業・2単位・1年生および2年生対象

集中英語コース iStep (Intensive Short Term English Program) では、海外での語学研修に準じた密度の高い学習を行います。少人数クラスで一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力向上を目指します。(iStep 修了者は第3・第4ターム開講の iStep Extension を優先的に履修できます。) 履修を希望する学生は、詳細および履修方法について下記のリンク先を必ず参照してください。

<https://sites.google.com/view/niigatauniversityistep/home>



iStep 科目とアカデミック英語入門科目の標準的な対応は下の表のとおりですが、修得単位の取り扱いは学部により異なります。所属学部の学務係に確認してください。

標準的な英語科目との対応表

標準的な英語科目	iStep 科目
アカデミック英語入門 L (1 単位)	iStep Listening & Speaking (0.5 単位)及び iStep Presentations (0.5 単位)
アカデミック英語入門 R(1 単位)	iStep Academic Reading (0.5 単位)及び iStep Academic Writing (0.5 単位)

●その他の選択科目

※ 全学部を対象とします。EAP 科目以外は1年生も履修できます。(医学部医学科1年生はEAP科目の履修も可)

※選択科目は定員超過などの理由により、希望通りのクラスが履修できないこともありますので、担当教員による聴講許可が下りるまでは、シラバスに記載の教科書を購入しないでください。

中級コミュニケーション英語 (Intermediate Communicative English) : 週1回×16週授業・2単位・全学年対象

一般目的の英語 (English for General Purposes) を扱い、実践的な英語運用能力の向上を目指した学習を少人数クラスで行います。各クラスの具体的な授業内容については、シラバスを参照してください。

中級CALL (留学準備) (Intermediate CALL (Preparation for Study Abroad)) : 週1回×16週授業・2単位・全学年対象

英語の e-learning 教材を使用し、各自が主体となってリスニングを中心に学習します。語彙や文法の知識を整理しつつ、海外研修や留学先で実際に遭遇するであろうシチュエーションで使われる英語を正確に理解する能力を修得します。なお、留学などの予定がない場合でも受講は可能です。*CALL (コール) とは Computer Assisted Language Learning の頭字語で、コンピュータ支援言語学習のことです。

上級コミュニケーション英語 (Advanced Communicative English) : 週1回×16週授業・2単位・全学年対象

一般目的の英語 (English for General Purposes) を扱い、実践的な英語運用能力の向上を目指した学習を中級より少人数の理想的なクラス規模で行います。英語による応用力養成を図るための科目です。各クラスの具体的な授業内容については、シラバスを参照してください。

iStep Extension (アイ・ステップ・エクステンション) : 第3・第4ターム・週1回×16週授業・2単位・全学年対象 (iStep 修了者優先)

第2タームの集中英語コース iStep を修了し、さらに一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の実践的な運用能力向上を目指す学生向けに開講される科目です。第2タームの iStep 修了者を優先しますが、定員に余裕がある場合はだれでも履修することができます。シラバス検索画面の「科目名」欄に「iStep Extension」と入力することにより、容易に検索できます。

【開講科目の例】 科目名には全て「iStep Extension」が付いています。

- ・ iStep Extension: Academic Writing
- ・ iStep Extension: Intercultural Communication
- ・ iStep Extension: Presentation ほか

中級EAP (Intermediate EAP) : 週1回×16週または週2回×8週授業・2単位・2年生以上対象 (医学部医学科は1年生可)

この授業では、1年次必修科目のアカデミック英語入門科目群で培った基礎力を土台として、一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力の強化を目指します (法学部はアカデミック英語入門が選択科目であるため、法学部生は1年次にアカデミック英語入門を未履修であっても、2年次以降に本科目を履修することができます)。Intermediate EAP

(Listening & Speaking), Intermediate EAP (Reading), Intermediate EAP (Writing)が開講されます。

中級 EAP (Term Course) (Intermediate EAP (Term Course)) : 週 1 回×8 週授業・1 単位・2 年生以上対象 (医学部医学科は 1 年生可)

この授業では、1 年次必修科目のアカデミック英語入門科目群で培った基礎力を土台として、一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力の強化を目指します (法学部はアカデミック英語入門が選択科目であるため、法学部生は 1 年次にアカデミック英語入門を未履修であっても、2 年次以降に本科目を履修することができます)。ターム完結型の中級 EAP です。

上級 EAP (Advanced EAP) : 週 1 回×16 週授業・2 単位・2 年生以上対象 (医学部医学科は 1 年生可)

この授業では、一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力のさらなる向上を目指します。Advanced EAP (Listening & Speaking), Advanced EAP (Reading), Advanced EAP (Writing)が開講されます。

上級 EAP (Term Course) (Advanced EAP (Term Course)) : 週 1 回×8 週授業・1 単位・2 年生以上対象 (医学部医学科は 1 年生可)

この授業では、一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes) の運用能力のさらなる向上を目指します。ターム完結型の上級 EAP です。

TOEFL iBT Preparation I (トーフル・アイビーティ準備 I) : 週 1 回×16 週授業・2 単位・全学年対象

長期留学に関心がある学生のうち、TOEFL iBT の受験経験がない人を主な対象とする受験準備クラスです。TOEFL iBT のスコアは英語力の証明としてアメリカ等の留学希望先大学から求められます。第 1・2 タームと第 3・4 タームに 2 クラス開講され、学年を問わず履修できるので、早めの準備をすすめます。

TOEFL iBT Preparation II (トーフル・アイビーティ準備 II) : 週 1 回×16 週授業・2 単位・全学年対象

長期留学に関心がある学生のうち、TOEFL iBT の受験経験がある人、および TOEFL iBT Preparation I を履修済みの人を主な対象とする受験準備クラスです。これらに該当しない場合でも、中級程度の英語力があれば履修が可能です。TOEFL iBT のスコアは英語力の証明としてアメリカ等の留学希望先大学から求められます。第 1・2 タームと第 3・4 タームに 2 クラス開講され、学年を問わず履修できるので、早めの準備をすすめます。

IELTS Preparation I (アイエルツ準備 I) : 週 1 回×16 週授業・2 単位・全学年対象

長期留学に関心がある学生のうち、IELTS の受験経験がない人を主な対象とする受験準備クラスです。IELTS のスコアは英語力の証明としてイギリス等の留学希望先大学から求められます。第 1・2 タームと第 3・4 タームに 2 クラス開講され、学年を問わず履修できるので、早めの準備をすすめます。

IELTS Preparation II (アイエルトツ準備 II) : 週 1 回×16 週授業・2 単位・全学年対象

長期留学に関心がある学生のうち、IELTS の受験経験がある人、および IELTS Preparation I を履修済みの人を主な対象とする受験準備クラスです。これらに該当しない場合でも、中級程度の英語力があれば履修が可能です。IELTS のスコアは英語力の証明としてイギリス等の留学希望先大学から求められます。第 1・2 タームと第 3・4 タームに 2 クラス開講され、学年を問わず履修できるので、早めの準備をすすめます。

- ※ 中級コミュニケーション英語、上級コミュニケーション英語、中級 EAP、上級 EAP、中級 EAP (Term Course)、上級 EAP (Term Course)、TOEFL iBT Preparation I、TOEFL iBT Preparation II、IELTS Preparation I、IELTS Preparation II、iStep Extension については、同一科目名であっても履修できる科目数に上限はありません(既に履修した科目と同一科目名の履修を認めていない学部もあります)。ただし、同一教員で同一のシラバス内容の授業は重ねて履修できません。なお、修得単位の取り扱いは学部学科により異なりますので、所属学部の学務係に確認してください。
- ※ Let's Learn College English では、G コード英語科目をわかりやすく紹介しています。

https://www.iess.niigata-u.ac.jp/eigo/english/course/course_info_new.html



- ※ 大学の 1 単位の授業では週 1 時間、2 単位の授業では週 4 時間の課外学習が前提となっています。

イ スーパー英語 Academic Express 3 による学習について

新潟大学では、みなさんの英語学習を支援するため、e-learning 教材「スーパー英語 Academic Express 3」を提供しています。自然科学、社会科学、人文科学など、アカデミックなコンテンツを通じて Vocabulary, Grammar, Reading, Listening のスキルを鍛えます。基礎力強化から、TOEIC, TOEFL, IELTS の受験対策、海外大学院への留学レベルまで、目的に合わせて自分のペースで学習することができます。「My Portfolio」では英語学習の自己分析が可能です。

新潟大学の学生ならパソコンやタブレット、スマートフォンで 24 時間いつでも自主的に学習できるようになっています。学習の始め方については、下のリンク先にあるマニュアルを参照してください。なお、授業で使用する場合は、担当教員の指示に従ってください。

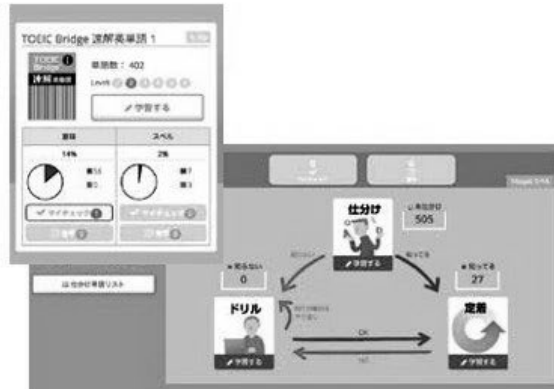
https://www.iess.niigata-u.ac.jp/eigo/english/ae3/ae3_2.html



Training Bank の活用法 レベル別、目的別 Book で効果的に学習

Vocabulary Bank

Vocabulary Bank は、単語の意味とスペル学習ができる単語学習帳です。学習レベルや目的にあわせた単語帳を自由に選択してください。学習の記録はすべて記録され、他の教材とも連動し、自分の知っている単語数を集計できるようになっています。「ドリル」・「定着を繰り返すことで知っている語彙の数をより正確に把握できますので、隙間時間などを活用して学習していきましょう。



Grammar Bank

Grammar Bank は学習レベル・目的別に編集した文法問題を 5000 問以上取り揃えています。並び替えや空所補充問題を通じて、文法問題を学び、さらに「別冊」を利用することで、語彙やディクテーションによる学びと連動することができます。テストスコアが伸び悩む場合は、この Grammar Bank を集中的に学習していただくことをお勧めします。

Reading Bank

Reading Bank では TOEFL/TOEIC/IELTS などでも利用される問題形式を豊富に準備しました。リーディング問題には人文科学や自然科学、社会科学などのカテゴリで分野に即した学びを深めることができます。また、速読のスキルや文脈理解、文章の論理的思考力を問う内容などを学ぶことができますので実務に役立つ力を身に付けることができるようになります。また、教材ごとに知っている語彙数などを確認できるのでレベルに見合った語彙力があるかを素早く確認することができます。



Listening Bank

Listening Bank も Reading Bank 同様 TOEFL/TOEIC/IELTS などでも用いられる問題形式の設問を豊富に準備しました。リスニング問題はビジネスや大学での生活をイメージした問題群なので身近な話題として取り組むことができます。また、ディクテーション問題などとの組み合わせで細部にこだわる学習にも対応しています。音声問題については、解説のスク립トを読む前に何度も繰り返して音声を確かめてみましょう。

AE3のお薦め教材 リスニング道場



「ディクタン」は聞こえてきた英文を正確にタイピングする「ディクテーション」教材です。重要な構文や熟語を含んだセンテンスを丸ごと覚えることで、リスニング力だけでなく文法力やライティング力も高めることができます。タイピングの練習にもなるので、PCに慣れていない人はぜひ、こちらを活用してください。



「リスタン」は聞き取れた語句だけを書き出しながらリスニングの内容を類推していくドリルです。聞き取れた語句の数を競うのではなく内容理解の確度を高めるトレーニングですので、書けない単語があっても、少しづつアウトプットを増やしていくことで徐々に英語力を高めることができます。



学習の習慣化をサポート 週刊！英語ドリル

「週刊！英語ドリル」は文法問題やリーディング問題、ディクテーション問題などが1週間単位で切り替わっていきます。5分程度で解答できる気軽なコンテンツなので、何から手を付けたらよいが不安な時は、こちらから始めることをお勧めします。学習を習慣化させるためのツールとしてご利用ください。



先生からの課題（宿題） Selected Training



AE3では、先生から課題を与える機能として、「Selected Training」を用意しています。「Selected Training」メニューに数字が表示されると学習者に宿題が提供されている証拠です。この宿題は先生が指定された期間に学習してほしい教材を Training Bank からピックアップしていますので優先的に完了させてください。

TOEFL/TOEIC 対策に！ Test Bank



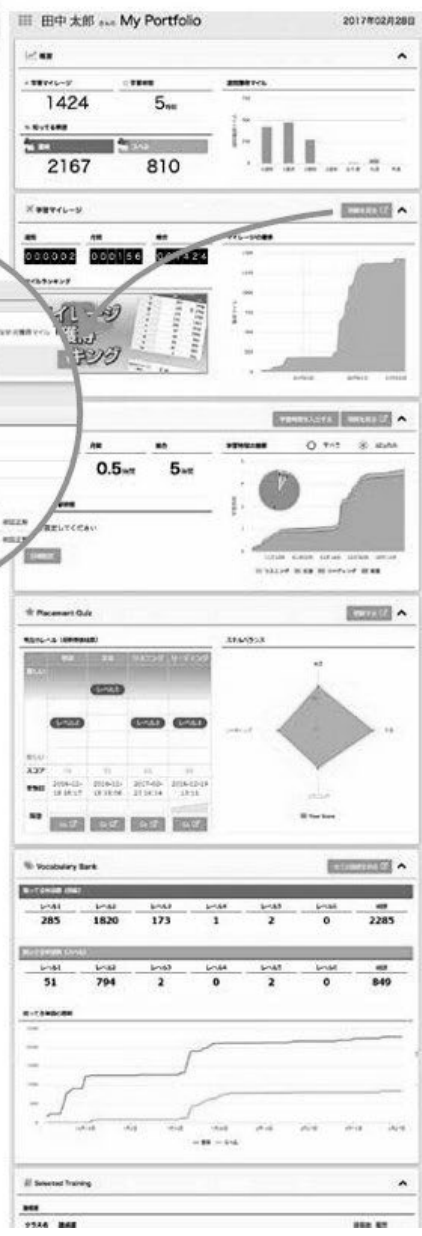
Test Bank では TOEFL/TOEIC/TOEIC bridge などの模擬テストが学校側の設定によって配信されます。配信時には「Test Bank」メニューに数字が表示されますので、定期的に確認してください。

模擬テストでは、対象のテストの換算点などを知ることができますので、本番を受ける機会があれば事前の腕試しとしてご利用ください。また、それ以外にも授業に関連した、オリジナルテストが配信される場合もありますので、先生方の指示に従って取り組んでください。なお、設定された期限以降は受験できなくなりますので、ご注意ください。



Home 画面をカスタマイズして学習の開始をスムーズに

ログイン直後の Home 画面には学習マイレージや学習単語数などのサマリー情報のほかに、目的の学習をスムーズに進めるための「My 学習ノート」をご用意しました。各教材の表紙にある「Clip」マークをチェックしておくことで、スムーズに学習を始めることができるようになります。



My Portfolio で英語学習を自己分析

AE3 はシステムを通じて学習した時間や取り組んだ数など様々な視点で情報をデータ化しています。そのデータは図のように学習者の学習傾向や目標への到達度などわかりやすく表現しています。この情報から、自分の学習の傾向や弱点の洗い出し、学習成果の到達状況などを確認することで、自立的な学習につなげています。

また、自己解決できない場合でも、これらの情報をもとに先生等に質問することで、今後の学習方針について相談することもスムーズに行えます。ぜひ、学習の振り返りツールとして『My Portfolio』を活用してください。

ウ 学部別英語履修案内 令和7年度用

英語の履修基準

新潟大学での英語の履修基準(卒業要件単位)・履修方法は学部、学科により異なり、最低履修単位数もそれぞれ異なっています。まず自分の所属する学部、学科の履修すべき単位数を確認してください。

学部・学科	英語の最低履修単位数
人文学部	2 単位
教育学部	2 単位
法学部	指定なし
経済科学部	2～6 単位
理学部	2 単位
医学部・医学科	2 単位
医学部・保健学科	3 単位
歯学部	2 単位
工学部	2 単位
農学部	2 単位
創生学部	2 単位 (英語の重点学習を選択する場合は6 単位)

では、これから各学部別に、どのように英語を学んだらよいのかを説明します。

【人文学部】

英語の最低履修基準は2 単位です。原則として、1 年次の第3・第4タームにアカデミック英語入門L (週1回・1 単位)、アカデミック英語入門R (週1回・1 単位)を履修してください。

アカデミック英語入門Lとアカデミック英語入門Rは、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第1 週目の授業に出席してください。

【教育学部】

英語の最低履修基準は2 単位です。原則として、1 年次の第3・第4タームにアカデミック英語入門L (週1回・1 単位)、アカデミック英語入門R (週1回・1 単位)を履修してください。

アカデミック英語入門Lとアカデミック英語入門Rは、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第1 週目の授業に出席してください。

【法学部】

法学部では、卒業要件において、最低履修基準はありません。

【経済科学部】

英語の最低履修基準は、2～6 単位(最低2 単位)です。2 年次以降に選択する学位プログラムの配属によって、英語と初修外国語を合わせた外国語の最低履修単位数の合計が10 単位、又は12

単位に分かれますが、英語 2 単位と初修外国語 6 単位を含むことは共通しています。原則として、1 年次の第 3・第 4 タームにアカデミック英語入門 L（週 1 回・1 単位）、アカデミック英語入門 R（週 1 回・1 単位）を履修してください。

アカデミック英語入門 L とアカデミック英語入門 R は、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第 1 週目の授業に出席してください。

【理学部】

英語の最低履修基準は 2 単位です。原則として、1 年次の第 3・第 4 タームにアカデミック英語入門 L（週 1 回・1 単位）、アカデミック英語入門 R（週 1 回・1 単位）を履修してください。

アカデミック英語入門 L とアカデミック英語入門 R は、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第 1 週目の授業に出席してください。

【医学部・医学科】

英語の最低履修基準は 2 単位です。原則として、1 年次の第 1・第 2 タームに実践コミュニケーション英語 I（週 1 回・1 単位）を履修し、第 3・第 4 タームに実践コミュニケーション英語 II（週 1 回・1 単位）を履修してください。

「実践コミュニケーション英語 I」は、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第 1 週目の授業に出席してください。「実践コミュニケーション英語 II」のクラスは、「実践コミュニケーション英語 I」と同じクラスです。

【医学部・保健学科】

英語の最低履修基準は、3 単位です。

1 年次第 3・第 4 タームに開講されるアカデミック英語入門 L とアカデミック英語入門 R は、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第 1 週目の授業に出席してください。

2 年次以降に旭町キャンパスで「医療英語」（2 単位）が開講されます。保健学科の各専攻が育成する医療職者に求められる ESP（特定目的のための英語）の領域での、EAP（学問のための英語）と EOP（職業のための英語）を学習することを主目的とする科目です。看護学・放射線技術科学・検査技術科学及びその関連分野を専門にする教員が担当します。

【歯学部】

英語の最低履修基準は 2 単位です。原則として、1 年次の第 3・第 4 タームにアカデミック英語入門 L（週 1 回・1 単位）、アカデミック英語入門 R（週 1 回・1 単位）を履修してください。

アカデミック英語入門 L とアカデミック英語入門 R は、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第 1 週目の授業に出席してください。

【工学部】

英語の最低履修基準は2単位です。原則として、1年次の第3・第4タームにアカデミック英語入門L（週1回・1単位）、アカデミック英語入門R（週1回・1単位）を履修してください。

アカデミック英語入門Lとアカデミック英語入門Rは、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第1週目の授業に出席してください。

【農学部】

英語の最低履修基準は2単位です。原則として、1年次の第3・第4タームにアカデミック英語入門L（週1回・1単位）、アカデミック英語入門R（週1回・1単位）を履修してください。

アカデミック英語入門Lとアカデミック英語入門Rは、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第1週目の授業に出席してください。

【創生学部】

英語の最低履修基準は2単位です。原則として、1年次の第3・第4タームにアカデミック英語入門L（週1回・1単位）、アカデミック英語入門R（週1回・1単位）を履修してください。

アカデミック英語入門Lとアカデミック英語入門Rは、入試成績等を参考にして習熟度別にクラス編成が行われ、その結果が学務情報システムの連絡通知または掲示等で周知されます。指定されたクラスへの登録はあらかじめされていますので、必ず第1週目の授業に出席してください。

また、2年次のスキル習得中心の科目で英語を選択する学生（※）は、上記2単位に加えて、実践的英語科目P.A.C.E. (Program for Academic and Communicative English)科目から4単位分を2年次に履修してください。（※DX共創コースは除く）

エ 各英語授業科目の履修登録要領

第3・第4ターム アカデミック英語入門L、アカデミック英語入門R 履修登録要領

- 1) 習熟度別クラス編成が行われます。
- 2) 第1週目は、それぞれのクラスに指定された学生と、英語履修相談室で発行された「聴講許可願い」をもつ学生のみ履修を受け付けます。定員（40人）に満たない場合でも、これらの学生以外は受け付けません。
- 3) クラス指定された学生は、あらかじめ履修登録されていますので、必ず第1週目の授業に出席してください。
- 4) 必修科目などとのバッティングにより指定クラスのアカデミック英語入門L・アカデミック英語入門Rを履修できない学生は、必ず英語履修相談室で相談してください。

**第1ターム・第2ターム 実践コミュニケーション英語Ⅰ
第3・第4ターム 実践コミュニケーション英語Ⅱ 履修登録要領**

* 実践コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱは医学部医学科向けに開講される科目で，それ以外の学生の履修は認めません。

- 1) 習熟度別クラス編成が行われます。
- 2) 第1週目は，それぞれのクラスに指定された学生と，英語履修相談室で発行された「聴講許可願い」をもつ学生のみ履修を受け付けます。定員（40人）に満たない場合でも，これらの学生以外は受け付けません。
- 3) クラス指定された学生は，あらかじめ履修登録されていますので，必ず第1週目の授業に出席してください。

オ 再履修者の履修登録要領

**再履修者用クラスの履修登録要領
(アカデミック英語入門L, アカデミック英語入門R)**

- 1) アカデミック英語入門Lとアカデミック英語入門Rでは，再履修者を対象としたクラスが開講されます。学部指定はありません。履修希望者は，Web上で履修許可申請をするとともに，必ず第1週目の授業に出席してください。
- 2) 履修希望者が定員（40人）を超過した場合は，第1週目の授業時に抽選等の方法で履修の許可・不許可が決められます。不許可となった学生は，他の曜限に開講されているクラスで履修手続きをしてください。

※ 令和元年度以前の【人文・教育・法・経済・医・歯学部】入学者および令和2年度以前の【理・工・農・創生学部】入学者で，学部の卒業要件単位を満たすため本年度の英語科目の履修を必要とする学生は，下の表の通り履修することになります。これら以外の科目について単位修得の必要がある場合には，所属学部の学務係に問い合わせてください。平成28年度以前入学者のうち卒業要件単位を満たしていない学生も，所属学部の学務係に問い合わせてください。

アカデミック英語R1・R2	「アカデミック英語入門R」の履修をもって充足する。
アカデミック英語L1・L2	「アカデミック英語入門L」の履修をもって充足する。

カ 英語履修相談室

必修科目などとのバッティングにより英語の履修手続きで著しく困難をきたしている学生は、下記の通り履修相談室を設けますので、利用してください。

期 間： 第1・第2ターム 令和8年4月7日(火)～4月14日(火)(予定)
第3・第4ターム 令和8年10月1日(木)～10月8日(木)(予定)

時 間： 土日を除き随時受け付けます。回答に時間を要します。

対応方法： ガイダンス時期に、以下のページで詳細をお知らせします。

新潟大学全学英語ポータルサイト：

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/eigo/english/contact.html>



② 初修外国語

ア 学部別初修外国語履修案内

初修外国語の履修基準

新潟大学での初修外国語の履修基準（卒業要件単位）・履修方法は、学部・学科によって異なっており、最低履修単位数もそれぞれ異なっていますので、まず自分の所属する学部・学科の単位数を確認してください。

学部・学科	初修外国語 最低履修単位数
人文学部	8 単位
教育学部	2 単位
法学部	指定なし
経済科学部	6～10 単位
理学部	2 単位
医学部 医学科	6 単位
医学部 保健学科	2 単位
歯学部 歯学科・口腔生命福祉学科	2 単位
工学部	2 単位
農学部	4 単位
創生学部	2 単位

以上のことを理解した上で、学部別にどんなコースで、どの外国語を学んだらよいかを説明します。

【人文学部】

人文学部の初修外国語の最低履修単位数は8 単位ですので、原則として**インテンシブ・コース**（1 年間・週 4 回演習形式・8 単位）で学ぶことになります。ただ**インテンシブ・コース**にはドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語の5ヶ国語しかありませんので、それ以外に**スペイン語を希望する場合は1 年次でスタンダード I/II**（1 年間・週 3 回演習形式・6 単位）を選択し、2 年次でスペイン語の**スタンダード III/IV**（1 年間・週 1 回演習形式・2 単位）で残りの2 単位を取得するようにしてください。

なお、心理・人間学プログラムを志望する学生のうち、哲学、または倫理学を学ぼうとする学生は、専門分野との関係でドイツ語かフランス語のいずれかを選択することをお勧めします。また、言語文化学プログラムを志望する学生のうち、英語圏の言語文化を学ぼうとする学生は、初修外国語の選択は自由ですが、ヨーロッパの言語文化を学ぼうとする学生は、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれかを選択することをお勧めします。

【教育学部】

教育学部の最低履修単位数は2 単位です。**グローバル理解科目**（ターム完結・週 1 回講義形式・1 単位）を第 1、第 2 タームにそれぞれ 1 科目履修すれば卒業要件を満たすことになります。

意欲のある人は、さらに第 3、第 4 ターム連続開講の**エッセンシャル科目**（週 2 回演習形式・2 単位）を履修できます。また、外国語によっては、実践面に力点を置いたオプションの**エッセ**

ンシヤル科目（週1回演習形式・1単位）も用意されています。

グローバル理解科目の代わりに、スタンダード（1年間・週3回演習形式・6単位）を履修することも可能です。

【法学部】

法学部は英語も含めた外国語の履修を義務づけていませんが、希望する学生は自由に履修が可能です。

【経済科学部】

経済科学部の最低履修単位数は、6～10単位です。2年次以降に選択する学位プログラムの配属によって、英語と初修外国語を合わせた外国語の最低履修単位数の合計が10単位、又は12単位に分かれますが、英語2単位と初修外国語6単位を含むことは共通しています。

履修コースとして、スタンダードI/II（1年間・週3回演習形式・6単位）を履修するのが標準となりますが、特に意欲がある学生は、インテンシブI/II（1年間・週4回演習形式・8単位）を履修することもできます。

また、スタンダードないしインテンシブを履修した後、アドバンスト・コースとして、2年次以上向けの中級科目であるコミュニケーション（1 Semester・週1回演習形式・2単位）を履修することも可能です。

【理学部】

理学部の最低履修単位数は2単位です。グローバル理解科目（ターム完結・週1回講義形式・1単位）を第1、第2タームにそれぞれ1科目履修すれば卒業要件を満たすことになります。

意欲のある人は、さらに第3、第4ターム連続開講のエッセンシヤル科目（週2回演習形式・2単位）を履修できます。また、外国語によっては、実践面に力点を置いたオプションのエッセンシヤル科目（週1回演習形式・1単位）も用意されています。

グローバル理解科目の代わりに、スタンダード（1年間・週3回演習形式・6単位）を履修することも可能です。

【医学部・医学科】

医学科の初修外国語の最低履修単位数は6単位です。希望するいずれかの言語のスタンダードI/II（1年間・週3回演習形式・6単位）を履修してください。

【医学部・保健学科】

医学部保健学科の最低履修単位数は2単位です。グローバル理解科目（ターム完結・週1回講義形式・1単位）を第1、第2タームにそれぞれ1科目履修すれば卒業要件を満たすことになります。

意欲のある人は、さらに第3、第4ターム連続開講のエッセンシヤル科目（週2回演習形式・2単位）を履修できます。また、外国語によっては、実践面に力点を置いたオプションのエッセンシヤル科目（週1回演習形式・1単位）も用意されています。

グローバル理解科目の代わりに、スタンダード（1年間・週3回演習形式・6単位）やインテンシブ（1年間・週4回演習形式・8単位）を履修することも可能です。

【歯学部 歯学科 / 口腔生命福祉学科】

歯学科および口腔生命福祉学科の最低履修単位数は2単位です。**グローバル理解科目**（ターム完結・週1回講義形式・1単位）を第1，第2タームにそれぞれ1科目履修すれば卒業要件を満たすことになります。

意欲のある人は、さらに第3，第4ターム連続開講の**エッセンシャル科目**（週2回演習形式・2単位）を履修できます。また、外国語によっては、実践面に力点を置いたオプションの**エッセンシャル科目**（週1回演習形式・1単位）も用意されています。

グローバル理解科目の代わりに、**スタンダード**（1年間・週3回演習形式・6単位）や**インテンシブ**（1年間・週4回演習形式・8単位）を履修することも可能です。

【工学部】

工学部の最低履修単位数は2単位です。**グローバル理解科目**（ターム完結・週1回講義形式・1単位）を2科目履修すれば卒業要件を満たすことになります。意欲のある人は、さらに第3，第4ターム連続開講の**エッセンシャル科目**（週2回演習形式・2単位，オプションでさらに週1回演習形式・1単位の実践面に力点を置いた授業を追加できます）を履修できます。

グローバル理解科目の代わりに、**スタンダード**（1年間・週3回演習形式・6単位）や**インテンシブ**（1年間・週4回演習形式・8単位）を履修することも可能です。

【農学部】

農学部の最低履修単位数は4単位です。**グローバル理解科目**（ターム完結・週1回講義形式・1単位）を第1，第2タームにそれぞれ1科目履修し、さらに第3，第4ターム連続開講の**エッセンシャル科目**（週2回演習形式・2単位）を履修して、卒業要件を満たすことになります（エッセンシャル科目を含む形で履修してください）。さらに、外国語によっては、実践面に力点を置いたオプションの**エッセンシャル科目**（週1回演習形式・1単位）も用意されています。

グローバル理解科目，エッセンシャル科目の代わりに、**スタンダード**（1年間・週3回演習形式・6単位）や**インテンシブ**（1年間・週4回演習形式・8単位）を履修することも可能です。

【創生学部】

創生学部の最低履修単位数は2単位です。**グローバル理解科目**（ターム完結・週1回講義形式・1単位）を2科目履修すれば卒業要件を満たすことになります。

創生学部1年次生につきましては、第2タームに必修科目として、創生学修コースは「フィールドスタディーズ」を、DX共創コースは「DXスタディーズ」を履修する必要があるため、グローバル理解科目の履修は第2タームを除きます。1年次第1ターム内でグローバル理解科目を2科目受講して、卒業に必要な2単位を取得完了することも可能です（2年次生につきましては、第2タームでの履修も可能です）。

意欲のある人は、さらに第3，第4ターム連続開講の**エッセンシャル科目**（週2回演習形式・2単位）を履修できます。外国語によっては、実践面に力点を置いたオプションの**エッセンシャル科目**（週1回演習形式・1単位）も用意されています。

※創生学部では、第3，第4タームに選択必修科目が開講されます。したがって、特に1年次生がエッセンシャル科目の履修を検討するにあたっては、各ターム内の開講曜限の重複に十分注意してください。

令和8年度入学者の標準的履修方法

学部・学科	標準的な履修例	取得単位数
人文学部	インテンシブ I/II	8 単位
	スタンダード I/II/III/IV (スペイン語)	8 単位
教育学部	グローバル理解科目	2 単位
法学部		指定なし
経済科学部	スタンダード I/II	6 単位
理学部	グローバル理解科目	2 単位
医学部 医学科	スタンダード I/II	6 単位
医学部 保健学科	グローバル理解科目	2 単位
歯学部 歯学科・口腔生命福祉学科	グローバル理解科目	2 単位
工学部	グローバル理解科目	2 単位
農学部	グローバル理解科目＋エッセンシャルA	4 単位
創生学部	グローバル理解科目	2 単位

以上の説明はあくまでも卒業要件単位を満たすためのものです。必要単位数を超えて学ぶこと、あるいはさらに上級のコースに進むこともできます。

スタンダード I/II とインテンシブ I/II は、1年間を通して実施されるコースです。初修外国語に関心と意欲のあるすべての学生に開かれています。各コースの学習効果を高めるため、I/II は、必ず1年間を通して続けて履修する必要がありますので注意してください。

古典語など特殊な言葉を学ぶスペシャル・コースも開講されます。第3・4ターム開講の古代エジプト神聖文字文を履修することもできます。履修条件や取得単位数についてはシラバス等で確認してください。

1年次第1・2タームに履修する科目は、入学手続き時に調査した「初修外国語履修希望科目申告フォーム」に基づき、全体を調整して決定されます。決定した履修科目はあらかじめ履修登録されていますので、学務情報システムで確認の上、出席してください。

なお、1年次第3・4タームに履修する科目は、履修登録されませんので、第3・4ターム科目の履修許可申請期間に、自身で必ず申請を行ってください。

イ 1年次第2タームに学外学修等を履修する人の初修外国語選択

新潟大学では1年次の第2タームに、インターンシップや海外での短期語学研修など学外学修を積極的におこなうことを勧めています。

1年次第2タームにこのような学外学修科目等を履修する予定の人は、以下のようなかたちで初修外国語科目を履修してください。

【初修外国語 2 単位が必要な方】

1年次の第2タームに学外学修を選択することをあらかじめ決めている人は、第1タームでグローバル理解科目（週1回・1単位）を2科目履修してください（第3および第4タームに開講しているグローバル理解科目も少数あります）。

【初修外国語 4 単位が必要な方】

1年次の第2タームに学外学修を選択することをあらかじめ決めている人は、第1タームでグローバル理解科目（週1回・1単位）を2科目履修することが可能です。後期にエッセンシャル科目を履修してください。なお、エッセンシャル科目が用意されていない外国語もありますので、科目選択の際には注意してください。

このように、1年次第2タームに学外学修を選択した方は、外国語の履修形態がやや複雑になっていますので、4月と10月に実施される初修外国語履修相談（次項目ウ参照）にて、教員のアドバイスを受けてください。（それ以外の期間は、授業の担当教員か所属学部の学務係に問い合わせてください。）

ウ 初修外国語履修相談

初修外国語の履修に関する相談受け付け窓口を設置します。ただし、卒業要件や専門の必修科目とのかねあいについては、所属する学部の学務係に相談してください。

日 程：第 1・2ターム 令和8年4月6日(月)～4月13日(月)
第 3・4ターム 令和8年10月1日(木)～10月7日(水)

対応方法：ガイダンス時期に、以下のページで詳細をお知らせします。

■新潟大学初修外国語・授業関連情報ポータル

<https://x.gd/bhal6>



③ 公的語学検定の単位認定

本学入学前または入学後にかかわらず次表の検定試験等において、所定の成績を得た場合は、英語または初修外国語に関する科目を履修したものとみなして、単位を得ることができます。

単位認定の申請については、学部によって申請時期を設けている場合や、取り扱いが異なる場合がありますので、所属学部の学務係に確認してください。

※医学部医学科（令和8年度入学者、他）は、英語科目について単位認定を行いません。初修外国語についても取り扱いが異なりますので、医学科学務係へお問い合わせください。

新潟大学学則第 56 条第 1 項の規定による「文部科学大臣が別に定める学修」の英語及び初修外国語に関する科目における単位認定の取扱要項

(平成 16 年 4 月 1 日学長裁定)

第 1 趣旨

この要項は、新潟大学学則(平成 16 年学則第 1 号)第 56 条第 1 項の規定による文部科学大臣が別に定める学修の英語及び初修外国語に関する科目における単位認定の取扱いに関し、必要な事項を定める。

第 2 検定試験等

「文部科学大臣が別に定める学修」のうち、英語又は初修外国語に関する科目を履修したものとみなして単位を与えることができる検定試験等については、別表のとおりとする。

第 3 単位認定

- 1 学部は、学生が検定試験等において、所定の成績を得た場合は、単位を認定することができるものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、本学における授業科目の履修又は本要項に基づく単位認定により単位を修得済み若しくは単位認定済みの科目については、当該単位分を重複して認定しないものとする。

第 4 成績評価

成績評価の評語は「認定」とする。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 17 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 18 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 20 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

- 1 この要項は、平成 22 年 7 月 22 日から実施し、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

- 2 平成 21 年度以前に検定試験等において得た成績についての単位の認定は，なお従前の例による。

附 則

- 1 この要項は，平成 23 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 平成 22 年度以前に入学した学生及び平成 23 年度以降に入学した経済学部夜間主コース所属の学生に係る単位の認定については，なお従前の例による。

附 則

- 1 この要項は，平成 26 年 4 月 1 日から実施し，平成 25 年 1 月 1 日から適用する。
- 2 平成 24 年 12 月 31 日以前に検定試験等において得た成績についての単位の認定は，なお従前の例による。

附 則

この要項は，平成 28 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

- 1 この要項は，平成 29 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 平成 28 年度以前に入学した学生に係る単位の認定については，なお従前の例による。

附 則

この要項は，平成 30 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

- 1 この要項は，令和 2 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 令和元年度以前に入学した学生及び令和 2 年度に入学した理学部，工学部，農学部及び創生学部の学生に係る単位の認定については，なお従前の例による。

附 則

この要項は，令和 3 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は，令和 6 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は，令和 7 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は，令和 8 年 4 月 1 日から実施する。

別表

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
実用英語技能検定	準1級	アカデミック英語入門L	1単位	4単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
	1級	アカデミック英語入門L	1単位	6単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
		上級コミュニケーション英語	2単位	
IELTS(International English Language Testing System)	5.5点以上 6.0点未満	アカデミック英語入門L	1単位	4単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
	6.0点以上	アカデミック英語入門L	1単位	6単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
		上級コミュニケーション英語	2単位	
ケンブリッジ大学 英語能力検定試験	CAE以上	アカデミック英語入門L	1単位	6単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
		上級コミュニケーション英語	2単位	
TOEFL ITP, TOEFL PBT	550点以上 600点未満	アカデミック英語入門L	1単位	4単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
	600点以上	アカデミック英語入門L	1単位	6単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
		上級コミュニケーション英語	2単位	
TOEFL iBT	79点以上 100点未満	アカデミック英語入門L	1単位	4単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
	100点以上	アカデミック英語入門L	1単位	6単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
		上級コミュニケーション英語	2単位	
TOEIC 公開テスト, TOEIC IPテスト	730点以上 860点未満	アカデミック英語入門L	1単位	4単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
	860点以上	アカデミック英語入門L	1単位	6単位
		アカデミック英語入門R	1単位	
		中級コミュニケーション英語	2単位	
		上級コミュニケーション英語	2単位	

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計		
		科目名等	単位数			
国際連合公用語英語 検定試験	A級	アカデミック英語入門L	1単位	4単位		
		アカデミック英語入門R	1単位			
		中級コミュニケーション英語	2単位			
	特A級	アカデミック英語入門L	1単位	6単位		
		アカデミック英語入門R	1単位			
		中級コミュニケーション英語	2単位			
上級コミュニケーション英語		2単位				
GTEC CBT	1250点以上 1400点未満	アカデミック英語入門L	1単位	4単位		
		アカデミック英語入門R	1単位			
		中級コミュニケーション英語	2単位			
	1400点	アカデミック英語入門L	1単位	6単位		
		アカデミック英語入門R	1単位			
		中級コミュニケーション英語	2単位			
上級コミュニケーション英語		2単位				
TEAP	334点以上 400点未満	アカデミック英語入門L	1単位	4単位		
		アカデミック英語入門R	1単位			
		中級コミュニケーション英語	2単位			
	400点	アカデミック英語入門L	1単位	6単位		
		アカデミック英語入門R	1単位			
		中級コミュニケーション英語	2単位			
上級コミュニケーション英語		2単位				
ドイツ語技能検定試験	4級	〔ドイツ語スタンダード I A 及び ドイツ語スタンダード I B 又は ドイツ語エッセンシャル A 及び ドイツ語エッセンシャル B 又は ドイツ語インテンシブ I A 及び ドイツ語インテンシブ I B〕	〔1.5単位 及び 1.5単位 又は 2単位 及び 1単位 又は 2単位 及び 1単位〕	3単位		
		3級	〔ドイツ語スタンダード I A 及び ドイツ語スタンダード I B 及び ドイツ語スタンダード II 又は ドイツ語エッセンシャル A 及び ドイツ語エッセンシャル B 及び ドイツ語スタンダード II 又は ドイツ語インテンシブ I A 及び ドイツ語インテンシブ I B 及び ドイツ語インテンシブ II〕		〔1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位〕	6単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
(つづき) ドイツ語技能検定試験	2級以上	ドイツ語スタンダード I A 及び ドイツ語スタンダード I B 及び ドイツ語スタンダード II 及び コミュニケーション・ドイツ語 又は ドイツ語エッセンシャル A 及び ドイツ語エッセンシャル B 及び ドイツ語スタンダード II 及び コミュニケーション・ドイツ語 又は ドイツ語インテンシブ I A 及び ドイツ語インテンシブ I B 及び ドイツ語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位
Start Deutsch, Telc Deutsch, Goethe-Zertifikat, TestDaF	Start Deutsch 1, Telc Deutsch A1, Goethe-Zertifikat A1 TestDaF	ドイツ語スタンダード I A 及び ドイツ語スタンダード I B 及び ドイツ語スタンダード II 又は ドイツ語エッセンシャル A 及び ドイツ語エッセンシャル B 及び ドイツ語スタンダード II 又は ドイツ語インテンシブ I A 及び ドイツ語インテンシブ I B 及び ドイツ語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位
	Start Deutsch 2, Telc Deutsch A2以上, Goethe-Zertifikat A2以上, TestDaF B2以上	ドイツ語スタンダード I A 及び ドイツ語スタンダード I B 及び ドイツ語スタンダード II 及び コミュニケーション・ドイツ語 又は ドイツ語エッセンシャル A 及び ドイツ語エッセンシャル B 及び ドイツ語スタンダード II 及び コミュニケーション・ドイツ語 又は ドイツ語インテンシブ I A 及び ドイツ語インテンシブ I B 及び ドイツ語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
実用フランス語技能検定試験	4級	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 又は フランス語エッセンシャル A 及び フランス語エッセンシャル B 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B	1.5単位 及び 1.5単位 又は 2単位 及び 1単位 又は 2単位 及び 1単位	3単位
	3級	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語エッセンシャル A 及び フランス語エッセンシャル B 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位
	準2級以上	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語エッセンシャル A 及び フランス語エッセンシャル B 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位
TEF(パリ商工会議所認定試験)	レベル1 (69~203)	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語エッセンシャル A 及び フランス語エッセンシャル B 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
(つづき) TEF(パリ商工会議所 認定試験)	レベル2 (204~360)以上	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語エッセンシャルA 及び フランス語エッセンシャルB 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位
TCF	レベル1 (100~199)	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語エッセンシャルA 及び フランス語エッセンシャルB 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位
	レベル2 (200~299)以上	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語エッセンシャルA 及び フランス語エッセンシャルB 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位
DELTA (フランス国民 教育省認定フランス語 資格試験)	DELTA A1	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語エッセンシャルA 及び フランス語エッセンシャルB 及び フランス語スタンダード II 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
DELTA・DALF（フランス国民教育省認定フランス語資格試験）	DELTA A2以上・DALF C1以上	フランス語スタンダード I A 及び フランス語スタンダード I B 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語エッセンシャル A 及び フランス語エッセンシャル B 及び フランス語スタンダード II 及び コミュニケーション・フランス語 又は フランス語インテンシブ I A 及び フランス語インテンシブ I B 及び フランス語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位
ロシア語能力検定試験	4級	ロシア語スタンダード I A 及び ロシア語スタンダード I B 又は ロシア語エッセンシャル A 及び ロシア語エッセンシャル B 又は ロシア語インテンシブ I A 及び ロシア語インテンシブ I B	1.5単位 及び 1.5単位 又は 2単位 及び 1単位 又は 2単位 及び 1単位	3単位
	3級	ロシア語スタンダード I A 及び ロシア語スタンダード I B 及び ロシア語スタンダード II 又は ロシア語エッセンシャル A 及び ロシア語エッセンシャル B 及び ロシア語スタンダード II 又は ロシア語インテンシブ I A 及び ロシア語インテンシブ I B 及び ロシア語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位
	2級以上	ロシア語スタンダード I A 及び ロシア語スタンダード I B 及び ロシア語スタンダード II 及び コミュニケーション・ロシア語 又は ロシア語エッセンシャル A 及び ロシア語エッセンシャル B 及び ロシア語スタンダード II 及び コミュニケーション・ロシア語 又は ロシア語インテンシブ I A 及び ロシア語インテンシブ I B 及び ロシア語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
HSK (漢語水平考試)	筆記試験2級	<ul style="list-style-type: none"> (中国語スタンダード I A 及び 中国語スタンダード I B) 又は (中国語エッセンシャルA 及び 中国語エッセンシャルB) 又は (中国語インテンシブ I A 及び 中国語インテンシブ I B) 	<ul style="list-style-type: none"> (1.5単位 及び 1.5単位) 又は (2単位 及び 1単位) 又は (2単位 及び 1単位) 	3単位
	筆記試験3級	<ul style="list-style-type: none"> (中国語スタンダード I A 及び 中国語スタンダード I B 及び 中国語スタンダード II) 又は (中国語エッセンシャルA 及び 中国語エッセンシャルB 及び 中国語スタンダード II) 又は (中国語インテンシブ I A 及び 中国語インテンシブ I B 及び 中国語インテンシブ II) 	<ul style="list-style-type: none"> (1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位) 又は (2単位 及び 1単位 及び 3単位) 又は (2単位 及び 2単位 及び 2単位) 	6単位
	筆記試験4級以上) (5級及び6級については、180点以上)	<ul style="list-style-type: none"> (中国語スタンダード I A 及び 中国語スタンダード I B 及び 中国語スタンダード II 及び コミュニケーション・中国語) 又は (中国語エッセンシャルA 及び 中国語エッセンシャルB 及び 中国語スタンダード II 及び コミュニケーション・中国語) 又は (中国語インテンシブ I A 及び 中国語インテンシブ I B 及び 中国語インテンシブ II) 	<ul style="list-style-type: none"> (1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位) 又は (2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位) 又は (2単位 及び 2単位 及び 4単位) 	8単位
中国語検定試験	準4級	<ul style="list-style-type: none"> (中国語スタンダード I A 及び 中国語スタンダード I B) 又は (中国語エッセンシャルA 及び 中国語エッセンシャルB) 又は (中国語インテンシブ I A 及び 中国語インテンシブ I B) 	<ul style="list-style-type: none"> (1.5単位 及び 1.5単位) 又は (2単位 及び 1単位) 又は (2単位 及び 1単位) 	3単位
	4級	<ul style="list-style-type: none"> (中国語スタンダード I A 及び 中国語スタンダード I B 及び 中国語スタンダード II) 又は (中国語エッセンシャルA 及び 中国語エッセンシャルB 及び 中国語スタンダード II) 又は (中国語インテンシブ I A 及び 中国語インテンシブ I B 及び 中国語インテンシブ II) 	<ul style="list-style-type: none"> (1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位) 又は (2単位 及び 1単位 及び 3単位) 又は (2単位 及び 2単位 及び 2単位) 	6単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
(つづき) 中国語検定試験	3級以上	中国語スタンダード I A 及び 中国語スタンダード I B 及び 中国語スタンダード II 及び コミュニケーション・中国語 又は 中国語エッセンシャルA 及び 中国語エッセンシャルB 及び 中国語スタンダード II 及び コミュニケーション・中国語 又は 中国語インテンシブ I A 及び 中国語インテンシブ I B 及び 中国語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位
「ハングル」能力検定試験	4級	朝鮮語スタンダード I A 及び 朝鮮語スタンダード I B 又は 朝鮮語エッセンシャルA 及び 朝鮮語エッセンシャルB 又は 朝鮮語インテンシブ I A 及び 朝鮮語インテンシブ I B	1.5単位 及び 1.5単位 又は 2単位 及び 1単位 又は 2単位 及び 1単位	3単位
	3級	朝鮮語スタンダード I A 及び 朝鮮語スタンダード I B 及び 朝鮮語スタンダード II 又は 朝鮮語エッセンシャルA 及び 朝鮮語エッセンシャルB 及び 朝鮮語スタンダード II 又は 朝鮮語インテンシブ I A 及び 朝鮮語インテンシブ I B 及び 朝鮮語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 2単位	6単位
	準2級以上	朝鮮語スタンダード I A 及び 朝鮮語スタンダード I B 及び 朝鮮語スタンダード II 及び コミュニケーション・朝鮮語 又は 朝鮮語エッセンシャルA 及び 朝鮮語エッセンシャルB 及び 朝鮮語スタンダード II 及び コミュニケーション・朝鮮語 又は 朝鮮語インテンシブ I A 及び 朝鮮語インテンシブ I B 及び 朝鮮語インテンシブ II	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位 又は 2単位 及び 2単位 及び 4単位	8単位

検定試験等の名称	成 績	認定科目・認定単位数		認 定 単位数 合 計
		科 目 名 等	単位数	
韓国語能力試験	1級	(朝鮮語スタンダード I A 及び 朝鮮語スタンダード I B) 又は (朝鮮語エッセンシャルA 及び 朝鮮語エッセンシャルB) 又は (朝鮮語インテンシブ I A 及び 朝鮮語インテンシブ I B)	(1.5単位 及び 1.5単位) 又は (2単位 及び 1単位) 又は (2単位 及び 1単位)	3単位
	2級	(朝鮮語スタンダード I A 及び 朝鮮語スタンダード I B 及び 朝鮮語スタンダード II) 又は (朝鮮語エッセンシャルA 及び 朝鮮語エッセンシャルB 及び 朝鮮語スタンダード II) 又は (朝鮮語インテンシブ I A 及び 朝鮮語インテンシブ I B 及び 朝鮮語インテンシブ II)	(1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位) 又は (2単位 及び 1単位 及び 3単位) 又は (2単位 及び 2単位 及び 2単位)	6単位
	3級以上	(朝鮮語スタンダード I A 及び 朝鮮語スタンダード I B 及び 朝鮮語スタンダード II 及び コミュニケーション・朝鮮語) 又は (朝鮮語エッセンシャルA 及び 朝鮮語エッセンシャルB 及び 朝鮮語スタンダード II 及び コミュニケーション・朝鮮語) 又は (朝鮮語インテンシブ I A 及び 朝鮮語インテンシブ I B 及び 朝鮮語インテンシブ II)	(1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 2単位) 又は (2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 2単位) 又は (2単位 及び 2単位 及び 4単位)	8単位

検定試験等の名称	成績	認定科目・認定単位数		認定単位数合計
		科目名等	単位数	
スペイン語技能検定試験	6級	(スペイン語スタンダード I A 及び スペイン語スタンダード I B) 又は (スペイン語エッセンシャル A 及び スペイン語エッセンシャル B)	1.5単位 及び 1.5単位 又は 2単位 及び 1単位	3単位
	5級	(スペイン語スタンダード I A 及び スペイン語スタンダード I B 及び スペイン語スタンダード II) 又は (スペイン語エッセンシャル A 及び スペイン語エッセンシャル B) 及び (スペイン語スタンダード II)	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位	6単位
	4級以上	(スペイン語スタンダード I A 及び スペイン語スタンダード I B 及び スペイン語スタンダード II 及び スペイン語スタンダード III 及び スペイン語スタンダード IV) 又は (スペイン語エッセンシャル A 及び スペイン語エッセンシャル B) 及び (スペイン語スタンダード II 及び スペイン語スタンダード III 及び スペイン語スタンダード IV)	1.5単位 及び 1.5単位 及び 3単位 及び 1単位 及び 1単位 又は 2単位 及び 1単位 及び 3単位 及び 1単位 及び 1単位	8単位

【補 足】

(1) 他の大学等における授業科目の履修等又は大学以外の教育施設等における学修若しくは入学前の既修得単位等について、新潟大学学則第55条又は第56条若しくは第57条の規定に基づき単位認定済みの科目についても、当該単位分を重複して認定しません。

(2) 初修外国語については、既に単位を修得済み又は単位認定済みの授業科目がある場合は、上記の表に定める公的語学検定の名称及び成績区分に対応する科目名等に当該科目以外に認定を受けることができる授業科目があったとしても、当該科目と同等レベルの授業とみなし、当該科目とは別の科目名での単位認定は行いません。

【例】

ドイツ語の場合は、既に「ドイツ語スタンダード I A及びドイツ語スタンダード I B」3単位を修得済み又は単位認定済みの場合は、「ドイツ語技能検定試験」4級に合格しても、「ドイツ語エッセンシャル A及びドイツ語エッセンシャル B」又は「ドイツ語インテンシブ I A及びドイツ語インテンシブ I B」3単位の単位認定は行いません。

検定3級以上合格の場合も、同様とします。

また、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語及びスペイン語についても同様に取り扱いいます。

(3) 単位認定の対象となるオンライン試験について

- ・「実用英語技能検定」では、「S-CBT」も対象とします。
- ・「TOEIC IPテスト」では、「オンライン方式」は対象としません。
- ・「HSK (漢語水平考試)」では、「ネット試験」は対象としません。

※その他、対象となるか不明なものについては、教務課教育実施係へお問い合わせください。

④ 健康・スポーツ

1) 体育実技 「健康スポーツ科学実習Ⅰ」、「健康スポーツ科学実習Ⅱ」

ア 履修の方法

- ・ 第1学期（第1・2ターム）及び第2学期（第3・4ターム）に開講される「健康スポーツ科学実習Ⅰ」は、全学部の第1年次学生が対象です（法学部・経済科学部・理学部・創生学部は必修ではありません）。学部又は学部・学科で指定されていますので、指定されたコースを履修してください。
- ・ 第1年次学生対象である「健康スポーツ科学実習Ⅰ」は、基本的に第1学期（第1・2ターム）に開講しますが、教育学部、工学部の約半数は第2学期（第3・4ターム）に開講しますので、時間表に指定された学部・学科に従って履修してください。
- ・ 「健康スポーツ科学実習Ⅰ」を履修せずに、「健康スポーツ科学実習Ⅱ」のみの履修で「健康スポーツ科学実習Ⅰ」の単位に代替することはできません。ただし、学部によっては、「健康スポーツ科学実習Ⅰ」の履修手続きをした後、特別な事由により単位不認定となった場合は、その後「健康スポーツ科学実習Ⅱ」の履修で「健康スポーツ科学実習Ⅰ」の単位に代替することができます。そのような必要が生じた場合は、所属学部の学務係に申し出てください。
- ・ 第1学期（第1・2ターム）及び第2学期（第3・4ターム）に開講される「健康スポーツ科学実習Ⅱ」は、全学部の学生が自由に履修できます。「健康スポーツ科学実習Ⅱ」の履修は第2年次以降の学生を優先としますが、コース定員に余裕がある場合は、第1年次学生も履修することができます。

イ 履修登録ならびに受付

- ・ **第1学期（第1・2ターム）** 開講の「健康スポーツ科学実習Ⅰ」及び「健康スポーツ科学実習Ⅱ」については、授業時間表に従い登録してください。授業開始第1週目（4月8日～14日）はそれぞれの授業実施曜限に第1体育館に集合してください。そこで受け付けの確認を行います。第2週目以後の履修登録の指示は、各コースとも時間表に定めた実施場所で行います。
- ・ **第2学期（第3・4ターム）** 開講の「健康スポーツ科学実習Ⅰ」及び「健康スポーツ科学実習Ⅱ」についても第1学期（第1・2ターム）に準じます。授業開始第1週目（10月2日～8日）はそれぞれの授業実施曜限に第1体育館に集合してください（ただし「**健康スポーツ科学実習Ⅱ（剣道）**」および「**健康スポーツ科学実習Ⅱ（スキー）**」についてはシラバスで集合場所を確認してください。）。そこで受け付けの確認を行います。第2週目以後は、時間表に定めた実施場所で行います。

※第1学期の月曜日1限、水曜日4限「健康スポーツ科学実習Ⅰa」（第1ターム）および「健康スポーツ科学実習Ⅰb」（第2ターム）の授業は履修においては第1タームと第2タームについて異なる教員の授業を履修してください。両タームにおける同一教員の授業の連続履修は認められません。今年度は「第1ターム月曜日1限と

第2ターム水曜日4限」の組み合わせ、あるいは「第1ターム水曜日4限と第2ターム月曜日1限」の組み合わせで履修することになります。

ウ 授業内容及びスポーツ種目

- ・「健康スポーツ科学実習Ⅰ」及び「健康スポーツ科学実習Ⅱ」の各授業の詳細い内容については、学務情報システムのシラバスを参照してください。
- ・第1学期（第1・2ターム）の「健康スポーツ科学実習Ⅱ」のスポーツ種目は、ゴルフ、ソフトボールが開講されます。
- ・第2学期（第3・4ターム）の「健康スポーツ科学実習Ⅱ」のスポーツ種目は、剣道、トレーニング、卓球、スキーが開講されます。また、集中講義として野外活動が開講されます。

エ 単位等

体育実技は、履修合格すると1単位取得できます。

なお、「健康スポーツ科学実習Ⅰa」および「健康スポーツ科学実習Ⅰb」は各タームで履修合格すると、それぞれ0.5単位取得できます。

ただし、「健康スポーツ科学実習Ⅱ」については、取得した単位が卒業に必要な単位数に加算されない学部や学科がありますので注意してください。

また、「健康スポーツ科学実習Ⅰ」と「健康スポーツ科学実習Ⅰa および b」は同じ科目であるため重複履修できません。

オ 運動制限者

「健康スポーツ科学実習Ⅰ」を履修する者で、疾病等による運動制限者は、あらかじめ所属する学部の学務係へ申し出て指示を受けてください。状況に応じて適切な履修の方法を指導します。

カ 用具、服装

- ・スポーツ種目の用具のうち、剣道の竹刀、ゴルフのシューズと手袋、スキー用具（希望者にはレンタルスキーの斡旋をします）等は、学生が各自用意してください。その他の種目の用具類は、大学で用意します。用具の購入については、履修を許可された後に担当教員の指示に従ってください。
- ・授業時の服装は運動着を基本とします。平服、ジーンズはさけ、運動のしやすい服装で臨んでください。
- ・体育館は土足禁止です。屋内用運動靴を各自用意し、体育館入口で履きかえてください。

キ その他

体育実技は、出席を重視します。授業時間数の3分の2以上の出席を必要とします。

2) 体育講義 「健康スポーツ科学講義」

ア 履修の方法

教育学部は必修であり、第1年次の第1学期（第1・2ターム）又は第2学期（第3・4ターム）のいずれかの指定された科目を履修してください。

教育学部以外の学部は、自由選択であり、年次にかかわらず履修できます。全学部と付記されている科目、又は学部指定科目でも定員に余裕があるクラスで履修できます。

なお、教員免許状の取得を希望する者は、健康スポーツ科学講義の単位を取得する必要があります。

イ 履修登録ならびに受付

第1学期（第1ターム）、第2学期（第3ターム）とも Web 上で履修許可申請をするとともに、必ず第1回目の授業に出席してください。第1回目の授業実施講義室で受け付けの確認を行います。

なお、第1学期（第1・2ターム）火曜日4限、水曜日4限又は第2学期（第3・4ターム）水曜日4限、木曜日2限に実施される「健康スポーツ科学講義 a」および「健康スポーツ科学講義 b」とも Web 上で履修許可申請をするとともに、必ず第1ターム又は第3タームの第1回目の授業に出席してください。第1回目の授業実施講義室で、第1・2ターム又は第3・4タームを含めた履修ガイダンスと受け付けの確認を行います。

ウ 単位等

「健康スポーツ科学講義」を履修合格すると、2単位取得できます。

なお、第1学期（第1・2ターム）火曜日4限、水曜日4限又は第2学期（第3・4ターム）水曜日4限、木曜日2限に実施される「健康スポーツ科学講義 a」および「健康スポーツ科学講義 b」は履修合格すると各タームにおいて、それぞれ1単位取得できますが、「a」と「b」をセットで受講することを原則とします。

また、「健康スポーツ科学講義」と「健康スポーツ科学講義 a および b」は同じ科目であるため重複履修できません。

⑤ 留学生基本科目

1) 対象者

留学生基本科目は、外国人留学生と日本語が母語ではない学生のための科目です。

2) 日本語科目

日本語科目は主に日本語「を」学ぶ科目です。どの科目も、留学生の日本での生活力の向上のために必要な授業です。授業の効率性を保つことが重要なため各クラスには定員があり、定員以上は受講できません。科目によって定員は違いますので、自分の受けた科目の定員がどれくらいか、早目に確認して受講の申し込みをしてください。日本語科目の受講の仕方についてのガイダンス資料があります。詳しくは、ガイダンス資料を確認してください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-japan/japanese-learning/>

日本語科目のレベルは以下のとおり、5段階に分かれています。

日本語能力検定試験でN4／N5受験レベル：N4

日本語能力検定試験でN4／N3受験レベル：N3

日本語能力検定試験でN3／N2受験レベル：N2

日本語能力検定試験でN1受験レベル：N1

日本で就職する可能性のある学生：社会人としての日本語

また、CEFRの評価基準でクラスのレベルを設定している授業もあります。

CEFRと日本語能力検定試験のレベルは対応していませんが、目安は以下のようになります。参考にしてください。

CEFR A1 : 日本語能力試験 N5 相当

CEFR A2 : 日本語能力試験 N4 相当

CEFR B1 : 日本語能力試験 N3 相当

CEFR B2 : 日本語能力試験 N2 相当

■ クラスの概要

各クラスの概要は以下の通りです。

【日本語 I～VII】

本授業は、CEFR A1～B1レベルの日本語を修得するクラスに分かれています。各クラスとも、日本語でのコミュニケーションに重点を置いています。各クラスの具体的な授業内容および日本語レベルは、シラバスを参照してください。

【日本語読解 I～VI】

本授業は、大学での修学に必要な日本語読解能力の向上を目的とする授業です。一定の長さの文章を読み、内容について教員や受講者同士の対話によって理解を深め、それについての自身の考え

や意見を言語化し、日本語力の一層の拡充を図ります。新聞・論文・論説・詩歌・小説・和歌を題材にするクラスに分かれています。各クラスの具体的な授業内容は、シラバスを参照してください。

【日本語作文 I～IV】

本授業は、日本語レベル別に分かれています。それぞれのレベルで日本語の作文力を身に付け、総合的に日本語力を向上させることが目的です。各クラスの具体的な授業内容および日本語レベルは、シラバスを参照してください。

【英語による日本語文法解説／中国語による日本語文法解説】

本授業は、英語または中国語による文法解説を通して、自律的に日本語を学習することができる科目です。

3) 日本事情科目

日本事情科目は主に日本語「で」学ぶ科目です。留学生に「日本」のことを学んでもらおうという目的で、日本で働く、ビジネス日本語、日本文化入門の3種類を開講しています。授業は全て日本語で実施されます。各クラスの具体的な授業内容は、シラバスを参照してください。

4) 日本人との共修科目

留学生基本科目ではありませんが、新潟大学個性化科目の中にアクティブラーニング、多文化間共修、日本と外国人の3種類を開講しています。この科目は、日本のさまざまなことについて、日本人と一緒に議論しながら学ぶというものです。授業は主に日本語を使うもの、主に英語を使うもの、日本語と英語の両方を使うものがあります。各クラスの具体的な授業内容は、シラバスを参照してください。

⑥ 自然系共通専門基礎

幅広い自然科学の確かな知識を持つことは、柔軟な発想や鋭い直観力・的確な判断力を身につけるために大切なことです。自然系共通専門基礎科目は、学生の皆さんが高校時代に学習した事柄をより確実な知識とし、さらに、自然系学部（理，工，農，医，歯の各学部および教育学部の一部）における専門教育へスムーズに接続できるよう、意図されています。卒業に必要な単位数は学部・学科ごとに定められていますので、それぞれの履修指導に従ってください。

以下、五つの分野（数学・統計学，物理学，化学，生物学，地学）のうち、特に説明が必要と考えられる数学・統計学および物理学について、履修上の注意を記します。

数学・統計学の履修上の注意

「解析学基礎 1, 2」と「数学基礎 A1, A2」はどちらも微分積分学です。

「解析学基礎 1, 2」の方はこれからも数学を学ぼうとする学生向けにレベルを高く設定しています。数学の科目「解析学基礎 1, 2」，「数学基礎 A1, A2」，「数学基礎 B1, B2」，「統計学基礎 1, 2」はそれぞれ，「1」と「2」の内容が繋がっているため，「1」に引き続き「2」の履修を推奨します。

物理学の履修上の注意

物理学では、高校での物理の履修歴や習熟度、また、所属学部・学科における多様なニーズなどに対応するため、複数のコースに分かれて学びます。

ア 履修コース別の科目案内

【入門コース】(2単位)

対象： 高校で物理を履修していない（履修したが習熟していない場合も含む）が、物理学に関する最小限の素養をつけたい学生向け。

科目： 「物理学概論」（2単位）が第1学期，第2学期に各1クラスずつ開講されます。物理学の包括的な内容（力学，熱と波動，電磁気）を扱います。

注意： ・「物理学基礎D」を修得済みの場合，「物理学概論」の履修はできません。
・令和5年度以降入学の理学部生で，理科教員免許取得希望者は必修です。
・令和4年度以前入学の理学部生で理科教員免許取得希望者のうち「物理学基礎D」を未修得の場合は，「物理学概論」を履修してください。
・理科教員免許取得の場合以外は，物理学基礎A，B，Cとの重複履修は原則として認めません。

【Aコース】(4単位)

対象： 原則として高校で物理を履修しており，これからも物理学を専門的に学ぼうとする学生向け。（工学部，医学部医学科，歯学部歯学科を除く。）

科目： 第1学期に「物理学基礎AⅠ」（2単位，2クラス），第2学期に「物理学基礎AⅡ」（2単位，1クラス）が開講されます。質点の力学および質点系・剛

体の力学を、微分方程式の解法などの関連する数学的技法とともに扱います。

【Bコース】(4単位)

対象： 工学部生、および、その他の自然系学部で、将来、それぞれの分野で物理の基礎知識を役立てようとする学生向け。(医学部医学科、歯学部歯学科を除く。)

科目： 「物理学基礎BⅠ」(2単位, 5クラス), 「物理学基礎BⅡ」(2単位, 4クラス)が開講されます。力学(振動・波動の初歩を含む)を扱います。

注意： 工学部生はBコースを受講してください。登録にあたっては、分野(力学, 情報電子, 化学材料, 建築, 融合領域)ごとにクラスが指定されています。

【Cコース】(4単位)

対象： 医歯学分野で必要な物理の基礎を修得しようとする学生向け。主として医学部医学科および歯学部歯学科が対象です。(医学物理士養成コースを目指す医学部保健学科学生も含まれます。)

科目： 第1学期に「物理学基礎CⅠ」(2単位), 第2学期に「物理学基礎CⅡ」(2単位)が各1クラス開講されます。

イ 重複履修に関する注意

A, B, Cの各科目(例えば, AⅠ, BⅠ, CⅠ)を重複して履修することは原則として認めません。ただし, Bコースで力学の基礎的(basicな)内容を学んだ後, さらに進んだ(advancedな)内容をAコースで学習することは, 例外的に認めることがあります。授業担当教員に相談してください。(逆に, Aコースの科目を修得済みの場合にBコースの科目を履修することは認めません。)

⑦ 情報リテラシー, 新潟大学個性化科目, 大学学習法, 自然科学, 人文社会・教育科学及び医歯学

情報リテラシー, 新潟大学個性化科目, 大学学習法, 自然科学, 人文社会・教育科学及び医歯学の授業科目を履修しようとする場合, あらかじめシラバスをよく読んで講義の内容を的確に把握しておくことが大切です。また, 学部指定があるものについては, その指定に従ってください。

2 新入生の修学上の留意事項

(1) 学生証

入学時に交付された学生証は、在学中における新潟大学学生としての身分を証明する唯一のもので、常に携帯してください。学生証を携帯していないと試験を受験できないことはもちろんのこと、各種証明書の発行、図書館など本学施設の利用ができないことがあります。

学生証を汚損・破損、紛失した場合は、速やかに所属する学部の学務係（医学部及び歯学部の第1年次学生は学務部教務課（総合教育研究棟1階③番窓口））で再発行の手続きを行ってください。

なお、原則として再発行には所定の費用（2,200円程度）がかかりますので紛失や破損に注意してください。

(2) 在籍番号

在籍番号は、自分の学籍を示すもので、原則として卒業まで同一の番号となります。

在籍番号は、履修手続、試験の答案、諸届出、各種証明書の申込みなどに必ず記入するものです。また、在籍番号だけで手続する場合もあり、氏名に代わるものとなるため、正確に記憶しておいてください。

(3) 学生への連絡・通知

授業及び試験などの周知を要する事項は、学務情報システムの連絡通知や教務課掲示板（総合教育研究棟学生玄関正面）を利用して行います。また、D棟廊下に各学部掲示板があり、各学部生に向けた掲示を行っています。

連絡等の内容は、皆さんが学生生活を送る上で密接な関係をもっており、注意を怠ると思わぬ不利益を被ることがあるので、一日一回は確認してください。

なお、急を要する場合は、電話で連絡することがあります。学務情報システムの学生情報に登録(入力)する連絡先は正確に、かつ最新の内容にしておいてください。

(4) 学生教育研究災害傷害保険

「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）は、大学の正課中、学校行事中、課外活動中及び学校施設内における休憩中並びに通学中(大学施設間の移動中も含む)に発生した不慮の事故を補償範囲とした学生のための全国的な制度です。

また、学研災付帯賠償責任保険として「学生教育研究賠償責任保険」（学研賠）があり、大学の正課中、学校行事や課外活動として認められたインターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動及びその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償範囲とした学生のための全国的な制度です。これらは安い保険料で、より多くの補償が得られるようにとの趣旨で運営されています。詳しくは入学手続き案内をご覧ください。

保険加入の確認(*)及び保険金請求については、学生支援課学生なんでも相談室(総合教育研究棟C棟1階)へお問い合わせください。

* 保険に加入しているかどうかは、学務情報システムの学生カルテ＞学研災・学研賠償情報画面からも確認できます。

(5) 盗難に注意

残念なことですが、学内において盗難が頻発しています。現金、貴重品は常に身につけるなど各自で対策をお願いします。特に体育実技の授業においては、更衣室の鍵のかかるロッカーを利用するか体育教員の指示に従って保管するようにしてください。万一盗難にあった場合には、警察に届け出るとともに、所属する学部の学務係又は、学生支援課学生係（総合教育研究棟A棟1階②番窓口）に報告してください。

3 総合教育研究棟の諸施設の利用等

Gコード科目の多くの授業は、総合教育研究棟で行われます。Gコード科目を履修している間(第1年次と第2年次が多いと思います。)は、総合教育研究棟の施設、設備等を使用する機会が多くありますので、以下確認してください。

(1) 校舎出入口の開錠及び施錠の時間

総合教育研究棟の各出入口の、開錠・施錠時間は次のとおりです。

	開錠時刻	施錠時刻
平日	7時30分	19時00分
休日	終日施錠	

なお、施錠時間帯であっても、各出入口（4 総合教育研究棟講義室・実験室等配置図参照）から退出することはできます。また、授業、研究や講義室等の使用許可を受けた課外活動等で必要な場合を除き、施錠時間帯は建物から速やかに退出してください。

(2) 施設の利用

講義室

講義室を使用できるのは、原則として平日の8:00から20:00です。休日及び平日の20:00から翌8:00の間は施錠し、原則として使用できません。

学生談話室(D棟2階「新潟大学×Möbius 学生ラウンジ」及びA棟1階「ALSOK 学生談話室」)〔開室時間(平日)8:00~18:00〕

自由に使用できます。整理・整頓を心がけて使用してください。

(3) 学生掲示板の使用等

総合教育研究棟内の学生掲示板の使用を希望する場合は、学生支援課学生係(総合教育

研究棟A棟1階②番窓口)にお問い合わせください。

(4) その他の注意事項

① 忘れ物・落とし物

キャンパス内での忘れ物・落とし物については、教務課④番窓口横の棚に保管しています。ただし、個人が特定できるものや貴重品等は学生支援課学生係(総合教育研究棟A棟1階②番窓口)で別途保管していますので、お問い合わせください。

② 自転車の駐輪場

駐輪場は、総合教育研究棟正面玄関前、学生玄関脇(第1学生食堂西側)及び学生広場下にあります。歩行者または障がい者を有する方の通行の妨げとなりますので、歩道上及び点字ブロック上には駐輪しないでください。

なお、自動二輪車・原動機付自転車は構内への乗り入れ禁止です。指定の駐輪場に駐輪してください。また、自動二輪車・原動機付自転車による通学を必要とする者は、所定の期間内に学生支援課学生係(総合教育研究棟A棟1階②番窓口)で手続きをし、「入構票」の交付を受けてください。

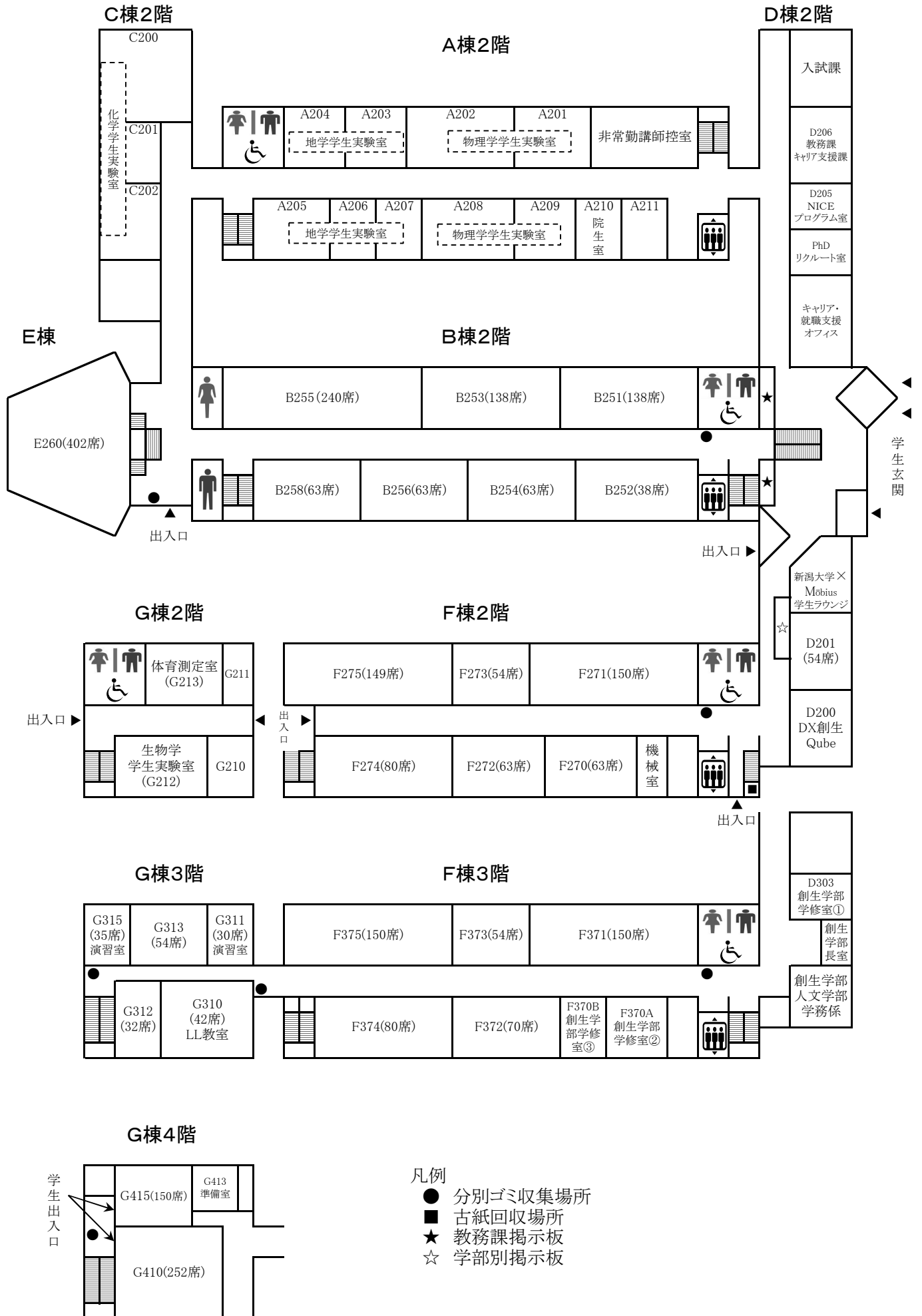
③ 禁煙

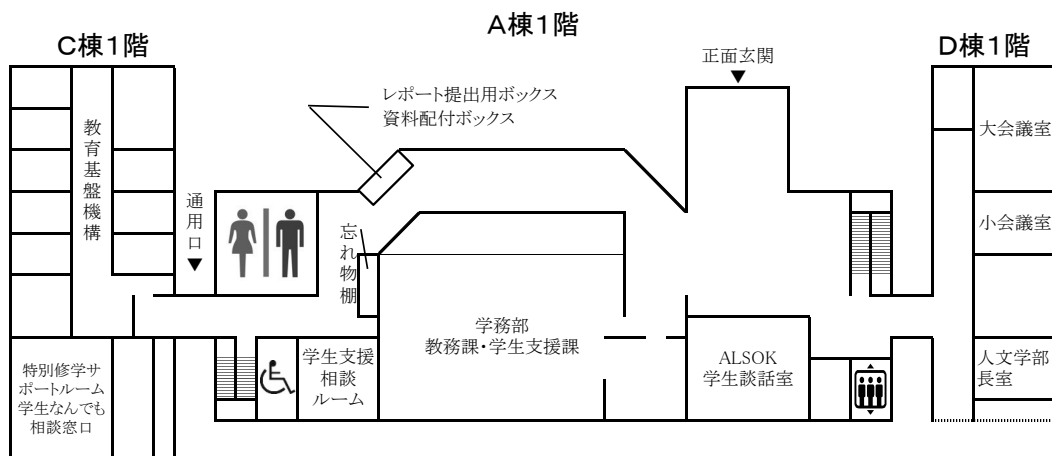
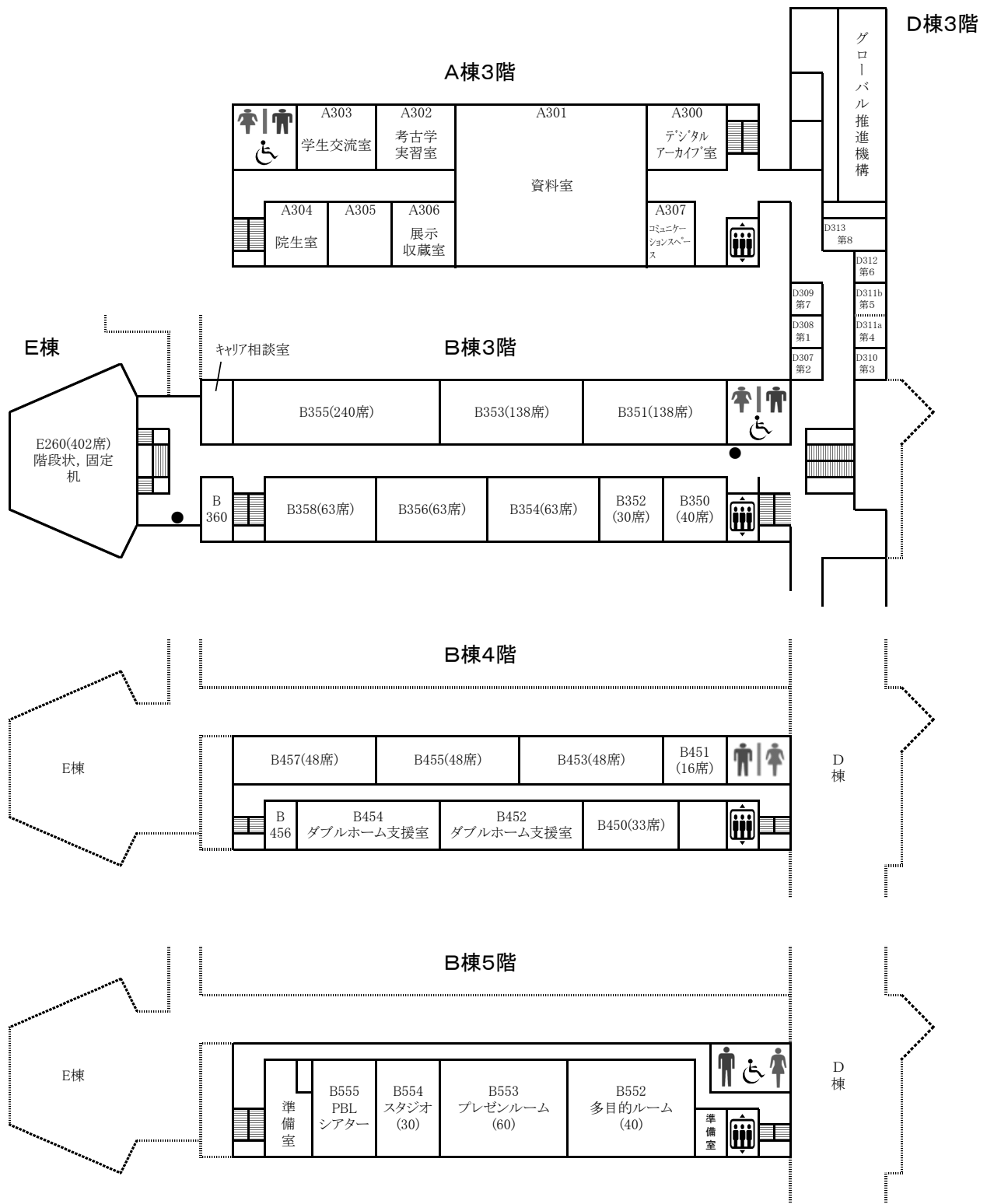
キャンパス内全面禁煙となっています。

④ ごみ収集・リサイクル

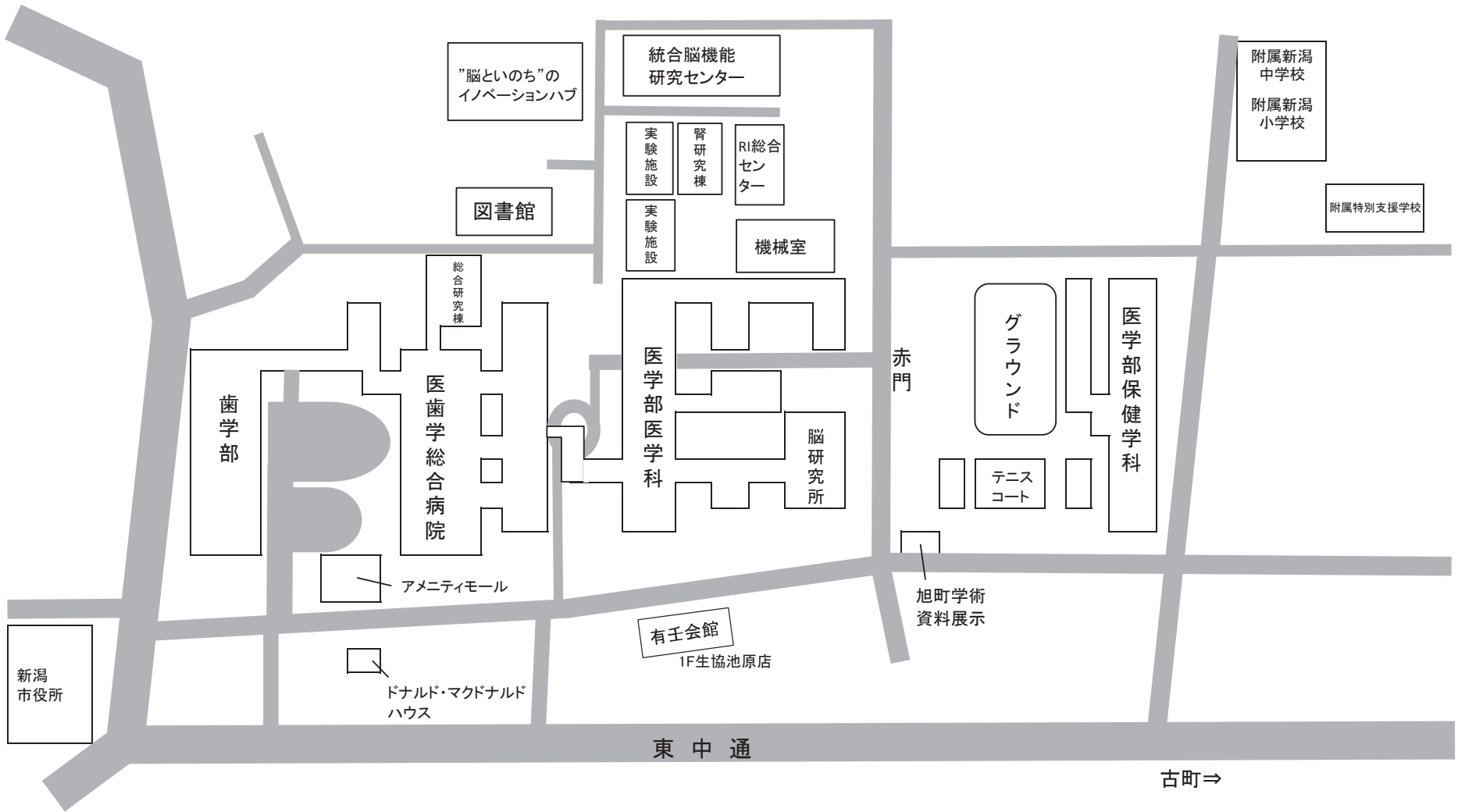
ごみ・資源は分別収集しています。所定のごみ箱へ、分別して捨ててください。

4 総合教育研究棟講義室・実験室等配置図





(2) 旭町キャンパス建物配置概略図



6 Q&A

(1) 授業

① クォーター制について

Q 新潟大学のクォーター制はどのようなものですか。

A 新潟大学は平成29年度から全学生を対象に「クォーター制」を導入しました。ひとつの年度を二分した第1学期・第2学期をさらに半分に分けた「クォーター」ごとに授業を行います。新潟大学ではこのクォーターのことを「ターム」と呼び、「2学期4ターム制」となります。

Q 授業はどのような形態で実施されますか。

A 科目の特性や学修効果にあわせて1)～5)のパターンで授業を実施します。

1) 週2コマ×8週（曜日セット開講）

月曜日と木曜日、火曜日と金曜日など、授業と授業の間に期間を開けて、週2回授業を行うもの。

2) 週2コマ×8週（2コマ連続開講）

1・2限連続や3・4限連続など、2つの授業時間をつなげて授業を行うもの。

3) 週1コマ×8週

授業期間が従来の半分となることにともない、1科目当たりの単位数も半分になります。このため、多くの科目は二分割された前半部分と後半部分の両方を履修することが基本となります。

4) 週1コマ×16週（2ターム連続開講）

従来どおりの学期単位16週で授業を行うもの。

5) その他

集中講義や初修外国語など、上記以外のパターンで開講されるもの。

② 一般事項

Q 時間表の指定場所に行ったのですが、学生が誰もいません。どうなっているのでしょうか。

Q 授業担当教員が、授業開始時刻を過ぎても来ないのですが、どのようにすれば良いのですか。

A 次のような事例があります。

- 1) 「休講」となっていました。休講を確認する方法は次項をご覧ください。
- 2) 「授業振替日」で授業がありませんでした。各曜日とも授業回数を確保するために、例えば、現実には火曜日ながら月曜日の授業を行うといった「授業振替日」を設定する場合があります。「授業振替日」は、当該年度の授業暦(表紙裏面)に示しています。
- 3) 授業場所を間違えていました。実技・実習科目等、特別な教室・場所で行われる科目の場合は、第1回目の授業を時間表と違う場所で行う場合があります。
- 4) 講義室が変更になっていました。事情により講義室を変更する場合があります。講義室変更は、授業担当教員から事前に授業中に指示がある場合や学務情報システムの「連絡通知」等でお知らせする場合があります。シラバスの講義室情報が変更されている場合もありますのでご確認ください。
- 5) シラバスの授業計画に、その日は授業を行わない旨記載している場合があります。
- 6) 授業開始時刻から20分経過しても授業担当教員が来ない場合は休講(扱い)となります。

Q 休講・補講はどうやって知ることができますか？

A 学務情報システムの「連絡通知」や「休講・補講参照」で確認できます。

③ 欠席

Q 授業に出席できない場合はどうすれば良いのでしょうか。

Q 就職活動等で授業を欠席しなければなりません。

Q 忌引きでGコード科目を欠席します。

Q 大学公認の競技会で、Gコード科目を欠席します。

Q 他の授業での現地実習のため他の科目を欠席します。

A 欠席する期間が2週間に満たない場合は、自分で授業担当教員へ申し出てください。あらかじめ申し出ることが出来ない場合は後日申し出てください。

なお、いわゆる公欠の制度はなく、その欠席をどのように扱うかは当該授業担当教員に委ねられています。欠席事由を証明する書類がある場合は、持参してください。

証明する書類の一例

- ・病気・怪我等：病院からの診断書または診療明細書など
- ・就職活動・試験：企業からの開催案内や実施要項など
- ・大会・競技会・演奏会など：学生係から発行される大会参加証明書など
- ・忌引き：会葬礼状など
- ・他の授業の現地実習：実習の日程表、実施要項など
- ・公的交通機関のトラブル：JRの遅延証明書など

上記はあくまでも一例です。教員からの指示がある場合は、それに従ってください。

A 病気、怪我等で、欠席する期間が2週間以上になる場合は、速やかに所属する学部の学務係に届け出なければなりません。また、引き続き2か月以上修学することができない場合は、手続きすることにより、休学することができます。いずれの場合も、詳細は所属する学部の学務係に問い合わせてください。

(2) 履修

① 履修手続き

Q 履修申請はいつまでにしなければならないのですか。

A 履修申請の期限は第1回目の授業日の前日までとなっています。

短い期間での作業となりますが忘れずに作業を行ってください。

・令和8年度第1学期の場合

4月8日（水）から実施される授業を履修したい場合は4月7日（火）まで。

4月9日（木）からの授業であれば4月8日（水）まで。以降同じ。

第2ターム分およびオンデマンド型授業は4月13日（月）まで。

Q 履修手続きの方法がわかりません。

A Webの操作方法については、本冊子15ページからの「学務情報システム操作入門マニュアル」、学務情報システムログイン後の画面左側のリンク「履修関係操作手順書」、及び「操作手順（学生）」（ダウンロードアイコン内に添付）をご覧ください。

Q 履修許可申請をしましたが、その科目の履修が許可されているかどうかを確認したいのですが。

Q 履修許可はいつ、どうやって発表されますか？

A 「履修許可確認・削除可能期間」内に、学務情報システムで確認してください。

許可情報の発表日は、その科目の抽選方式により異なります。自動抽選科目は第1回目の授業日当日のam0：00に発表されます。手動抽選科目は第1回目の授業日を含めて3日以内に発表されます。後半ターム（第2ターム、第4ターム）開講科目は、授業開始日が最も遅い曜日と同様の日程です。

詳細な日付については、履修手続日程を確認してください。

「？」(未確定)と表示されている場合には、授業担当教員に直接問い合わせてください。

なお、手動抽選科目は、第1回目の授業の際に口頭で許可・不許可を発表する場合がありますので、履修申請した科目は、第1回目から出席してください。

Q 履修希望者の選抜は誰が行うのですか。

A 履修の許可/不許可は、その授業科目の担当教員が行います。
ただし、自動抽選科目については、システムが自動的に履修者を決定します。

Q 「自動抽選科目」「手動抽選科目」とは何ですか。

A 授業科目は履修者の決定方法により「自動抽選科目」と「手動抽選科目」に区分されています。自動抽選科目は、履修者の決定をシステムが自動的に行い、手動抽選科目は、履修者の決定を教員が行います。

Q 「自動抽選科目」ではどのように履修者を決定するのですか。

A 自動抽選科目では、授業定員を基に履修者を決定します。履修希望者が授業定員に満たない場合には、全員を許可とします。履修希望者が授業定員を超えた場合は、履修の優先度が高い区分順に履修者を決定し、授業定員を超えることとなる優先度の区分内で抽選処理を行います。※

履修の優先度は大学側で定めるもの(学部優先)のほか、学生は1学期に3科目まで優先度「高」を付けて申請することができます。

※ システム上で履修許可とされた場合であっても、科目受講の前提条件を満たしていない等の理由により、後日、履修が不許可とされる場合があります。

Q 受講したい授業科目が「自動抽選科目」「手動抽選科目」のどちらであるかわかりません。

A 学務情報システムのWebシラバスに抽選方法の記載があります。
抽選方法別に抽出して表示させることも可能です。

Q 1週間に複数回行われる授業の場合、履修許可申請(あるいは取り消し)はその曜日ごとに行わなければならないのでしょうか。

A 1つの授業科目についての手続きは、曜日によらず、1度だけ行います。

Q 友人に学務情報システムで履修許可申請をお願いしたいのですが。

A あなたの学務情報システム用のIDを他人に使用させることはできません。
病気、怪我等、やむを得ない事情で学務情報システムによる履修許可申請が行えない場合は、所属する学部の学務係に相談してください。

Q 履修許可確認・削除可能期間とは、どのような期間をいうのですか。

A ①学務情報システムから履修申請した科目の許可/不許可を確認する。
②登録内容に疑義がある場合は、科目を所管する学部の学務係(Gコード科目は教務課教育実施係)へ申し出てください。
③履修が許可された科目を取り消す場合は、この期間内に必ず取消手続きを行ってください。
学務情報システム上で取消したい科目を「削除」することができます。
取消手続を行わない場合は、履修放棄とみなされ成績に影響します。

Q 履修登録追加期間とは、どのような期間をいうのですか。

A 定員に空きがある場合のみ、学務情報システムから履修登録を行う期間です。定員に達するまで先着順で登録が行われます。

Q 聴講票とは何ですか？

- A 集中講義など学務情報システムを使用せずに、履修の登録をする際に使用するものです。各学部の学務係及び教務課の学生カウンターにあります。
在籍番号と開講番号を鉛筆でマークし、必要事項を記入して授業担当教員から承認印をもらってください。その後、各学部等の学務係（Gコード科目は教務課教育実施係）に提出してください。
マーク式ですので記入には細心の注意を払う必要があります。間違ってもマークすると、違った科目が登録されるといった、思いも掛けない事態が起こります。「履修許可確認・削除可能期間」に、履修科目の確認を確実に行ってください。

Q 抽選に外れたためGコード科目が履修できません。

- A 「履修登録追加期間」に、学務情報システムにより追加申請してください。
科目の履修定員に空きがあるかどうかは、学務情報システムで確認できます。
A 新潟大学では、教養教育と専門教育の枠を取り払い、原則どの学部の学生であっても全ての授業科目を履修することができます。また、どの科目を専門教育科目とするかは、各学部により定められており、自身の所属学部が定めた専門科目以外の科目は原則として教養教育に関する科目としてカウントされます。すなわち、Gコード科目以外の科目を履修することで教養教育に関する科目を充足させることも可能です。詳細は、所属学部の学務係で確認してください（29，33ページ参照）

Q 間違った授業科目を申請してしまいましたが、どうしたら良いですか。

Q 履修の取り消しをするにはどうすれば良いのですか？

Q 履修が許可された科目を取り消して、その曜日・時限に別の科目を取りたいのですが、どうしたら良いのでしょうか。

- A 「履修許可申請期間」ならば、学務情報システムで申請し直してください。
「履修許可確認・削除可能期間」内に、取り消したい科目は学務情報システムで「削除」してください。履修したい科目は「履修登録追加期間」に学務情報システムより申請してください。

Q 履修申請した科目Aが許可されたことの確認を忘れ、履修申請していない別の科目Bを履修しています。どのようにすれば科目Aの履修許可を取り消せますか。

- A 「履修許可確認・削除可能期間」に、科目Aについては学務情報システムで「削除」し、科目Bについては「履修登録追加期間」に登録の手続きをしてください。
「履修許可確認・削除可能期間」に手続きしないと、科目Aは授業に出席しないわけですから成績は0点扱いとなり、科目Bは履修登録していないために成績が付けられないという、あなたにとっての不利益が生じます。定められた期間に、学務情報システムで確認することと、状況に応じた手続きを必ず行ってください。

Q 「履修許可確認・削除可能期間」以降に、取り消しはできますか？

Q 「履修登録追加期間」以降に、履修登録はできますか？

- A 取り消し及び履修登録はできません。
許可されたが履修しないこととした科目を取り消ししないまま放置すると、授業に出席しないわけですから成績は0点扱いとなります。また、その成績は、一部運用していない学部を除いてGPAの計算対象にもなります。
期間内に、履修科目の確認を確実に行ってください。※第2タームおよび第4ターム開始時の履修科目変更は、授業担当教員が許可した場合のみ可能です。詳細は「履修手続等の日程」（6ページおよび7ページ）を参照してください。

Q 「健康スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ」の履修手続きはどうすれば良いのですか。

A 学務情報システムで履修登録し、第1回目の授業時は、第1体育館に集合してください。第1回目の授業時は、普段の服装で差し支えありません。ただし、体育館は土足禁止となっていますので上履きを必ず持参してください。
また、「健康スポーツ科学実習Ⅱ」の剣道とスキー（Ⅰ・Ⅱ）についてはシラバスで確認してその指示に従ってください。

Q 「英語」の履修手続きはどうすれば良いのですか。

A クラス指定されている科目は、事前に登録されていますので、必ず第1週目の授業に出席してください。
クラス指定されていない科目は、学務情報システムで履修許可申請するとともに、必ず第1週目の授業に出席してください。

Q 非常勤講師は、どこにいらっしゃいますか。

A 授業の前後に、非常勤講師控室(総合教育研究棟A棟2階)にいます。ただし、同室は学生の立入禁止ですから、出入口で声をかけてください。また、次の授業の講義室にいらっしゃることもあります。

Q 教員のメールアドレスを知りたいのですが。

Q 教員と連絡を取りたいが、連絡先がわからないのですが。

A 学務情報システムにログインしてから、以下のいずれかの方法で確認することができます。
①「履修」>「履修登録・登録状況照会」画面で、登録した科目についてシラバスを確認する。
②「シラバス」>「シラバス参照」画面で、科目のシラバスを検索する。
シラバス内に記載されている授業担当教員の氏名にリンクが張ってあります。そこをクリックすると、メールアドレスが表示されます。
メールアドレスが表示されない場合は、Gコード科目は教務課教育実施係へ、それ以外の科目は科目を所掌する部局の学務係へ問い合わせてください。

Q オンライン授業のZOOMなどの情報はどこで確認できますか。

A 学務情報システムの「授業連絡通知」で確認することができます。

Q 「二重聴講」と言われましたが、何のことでしょうか？

A 同一ターム内の同一曜日・時限に、複数の科目を履修登録した場合のことです。複数の科目を同時に履修して単位を修得することはできませんので、履修したい1科目以外は取り消しの手続きをしてください。
なお、所属する学部・学科のカリキュラムによっては、二重聴講とならない場合があります。詳しくは、所属する学部の学務係に相談してください。

Q 実際は火曜1限に授業を行っているのですが、時間表上は月曜1限にあることになっています。そのため、月曜1限に他の科目を登録できません。

A 所属する学部の学務係に相談してください。

Q シラバスで指定されている教科書は、いつ購入すれば良いのでしょうか。

A 英語や初修外国語などクラス指定がされている科目などは1回目の授業に間に合うように購入することが望ましいでしょう。
抽選科目のように履修が直前まで決まっていな場合や、手動抽選のため1回目の授業でも履修が決まっていな場合は、履修が許可されたことを確認後速やかに購入するようにしてください。

② 履修相談

Q 初修外国語履修希望科目申告フォームで希望した初修外国語を、他の初修外国語に変更できますか。

A 初修外国語履修相談(57ページ参照)で相談してください。

Q 履修科目について相談したいことがあります。

Q 外国語科目について相談したいことがあります。

A 英語は52ページ、初修外国語は57ページに掲載の履修相談室で相談してください。その他の科目は、それぞれの授業担当教員に相談してください。

(3) 成績

Q この科目の単位が卒業(進級)要件にカウントされるか教えて欲しいのですが。

Q 授業の内容は異なるのですが同一の科目名です。両方の科目の単位が卒業(進級)要件にカウントされるでしょうか。

Q 科目名は異なりますが授業の内容は同じです。両方の科目の単位が卒業(進級)要件にカウントされるでしょうか。

A 所属する学部の学務係で確認してください。

Q 合格したのですが成績(点数)が不満です。取り消したいのですが。

A 成績を取り消すことはできません。なお、学部によって単位修得済みの科目を再度履修することについての取り決めがあります。所属する学部の学務係で確認してください。

Q 成績について疑問があるときは、どのようにすれば良いのですか。

A 成績確認期間内の指定された受付期間内に、学務部教務課教育実施係に申し出てください。その際所定用紙を記入の上、学務情報システムから「成績確認表」を出力(印刷)して、持参してください。

なお、その回答に対し不服がある場合、不服を申し立てる制度があります。不服の申立については、学務部教務課教育実施係に申し出てください。(Gコード科目以外の授業科目については、所属学部の学務係へお問い合わせください。)

(4) 学務情報システム

Q 正しいIDとパスワードを入力したのにログインできません。

A 下記注意事項をよく確認し、正確に入力してください。

(IDとパスワードを入力する際の注意事項)

- ・IDとパスワードは全角半角や大文字小文字を正確に入力する必要があります。記号や英字を入力する際は、よく確認してください。※在籍番号のアルファベットは小文字、数字は半角で入力します。
- ・ログインできない場合、メモ帳やWordなど文字が確認できるアプリ上で正しく入力し、入力した文字列をコピーしてログイン画面に貼り付けてください。
- ・学務情報システムは、パソコンの他スマホ等でもログインすることができます。どれか1つでもログインできる場合は、システム的に問題はありませんので、入力した文字が正しく入力されているか確認してください。

Q パスワードを入力した際、入力した文字ではなく「●」が表示されます。

A セキュリティのため、パスワードは「●」と伏せた状態で表示されます。異常ではありません。そのまま続けてください。

Q パスワードの変更ができません。

A パスワードの変更は、キャリアのネットワークなど「学内ネットワーク」以外では操作できません。大学内で学内ネットワークに接続してからパスワードを変更してください。

Q 変更したパスワードを忘れました。

A 学生証を持って、所属する学部の学務係に申し出てください。

※なお、事前にメールアドレスを登録することで、自分でパスワードを強制変更することが可能です。メールアドレスの登録方法については、学務情報システムログイン画面の「※パスワード変更はこちら」をクリックし、情報基盤センターのHPを参照願います。

Q 連絡通知が見つからないのですが。

A 連絡通知の画面下部にある「連絡通知情報検索」で、開講番号などの検索条件を入力して探してください。

通知期間が終了した連絡通知も、検索して確認することができます。

(5) 放送大学との単位互換について

Q 放送大学との単位互換制度について教えてください。

A 本学の学生が放送大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認めるものです。

学生が履修できる授業科目は、放送大学で開講する放送及び印刷教材による授業科目のうち本学が認めた科目です。令和8年度に履修可能な放送大学の授業科目は、次ページを参照してください。

Q 放送大学の単位は、何単位まで新潟大学の単位として認められますか？

A 8単位まで認められます。

Q 放送大学の科目を履修するにはどうすれば良いのでしょうか？

A 例年、第2学期の募集は7月頃、第1学期の募集は12月頃、掲示や所属学部の学務係を通して手続きを周知します。問い合わせ先は、教務課教育実施係です。

令和8年度に履修可能な放送大学の授業科目及び単位(公示)

放送大学の授業科目 (令和8年度)		単 位	新潟大学における取り扱い				
			認定 単 位	水準	平成23年度～令和2年度に 入学した学生適用	令和3年度～令和5年度に 入学した学生適用	令和6年度以降に 入学した学生適用
導入科目	発達心理学概論(17)	2	2	03	人文社会・教育科学(人文科学)	人文社会・教育科学(人文科学)	人文社会・教育科学(人文科学)
	多文化共生のコミュニケーション(24)	2	2	03	人文社会・教育科学(人文科学)	人文社会・教育科学(人文科学)	人文社会・教育科学(人文科学)
	日本国憲法(26)	2	2	03	人文社会・教育科学(法学)	人文社会・教育科学(法学)	人文社会・教育科学(法学)
	社会経済の基礎(25)	2	2	03	人文社会・教育科学(経済学)	人文社会・教育科学(経済学)	人文社会・教育科学(経済学)
	共生のための技術者倫理(24)	2	2	03	自然科学(工学)	自然科学(工学)	自然科学(工学)
	総合人類学としてのヒト学(18)	2	2	03	人文社会・教育科学(人文科学)	人文社会・教育科学(人文科学)	人文社会・教育科学(人文科学)
	情報と法(23)	2	2	03	人文社会・教育科学(法学)	人文社会・教育科学(法学)	人文社会・教育科学(法学)
	人体の構造と機能(26) ー人体の構造と機能及び疾病Aー	2	2	03	医歯学(医学)	医歯学(医学)	医歯学(医学)
	疾病の回復を促進する薬(25)	2	2	03	医歯学(医学)	医歯学(医学)	医歯学(医学)
	宮沢賢治と宇宙(24)	2	2	03	自然科学(理学)	自然科学(理学)	自然科学(理学)
	初歩からの情報科学(25)	2	2	03	自然科学(理学)	自然科学(理学)	自然科学(理学)
	ダイナミックな地球(21)	2	2	03	自然科学(理学)	自然科学(理学)	自然科学(理学)
基盤科目	心理と教育へのいざない(24)	2	2	03	人文社会・教育科学(教育人間科学)	人文社会・教育科学(教育人間科学)	人文社会・教育科学(教育人間科学)
	問題解決の進め方(25)	2	2	03	情報リテラシー(情報リテラシー)	情報リテラシー(情報リテラシー)	情報リテラシー(情報リテラシー)
	社会と産業の倫理(21)	2	2	03	人文社会・教育科学(経済学)	人文社会・教育科学(経済学)	人文社会・教育科学(経済学)
	身近な統計(24)	2	2	03	自然科学(理学)	自然科学(理学)	自然科学(理学)
基盤科目(外国語)	シン・ビートルズ de 英文法(25)	2	1	02	【平成23～31年度入学者】基礎英語 【令和2年度入学者】「英語基礎R」、又は「基礎英語」	「英語基礎R」	「英語基礎R」
	グローバル時代の英語(22)	2	1	03	【平成23～28年度入学者】アカデミック英語(リスニング) 【平成29～31年度入学者】アカデミック英語L1及びL2 【令和2年度入学者】「アカデミック英語入門L」、又は「アカデミック英語L1及びL2」	「アカデミック英語入門L」	「アカデミック英語入門L」
	英語で発信する日本文化(26)	2	1	04	【平成23～31年度入学者】発展英語 【令和2年度入学者】中級コミュニケーション英語	中級コミュニケーション英語	中級コミュニケーション英語
	教養で読む英語(19)	2	1	05	【平成23～31年度入学者】応用英語 【令和2年度入学者】上級コミュニケーション英語	上級コミュニケーション英語	上級コミュニケーション英語
	ドイツ語Ⅰ(23)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	ドイツ語圏グローバル理解
	ドイツ語Ⅱ(23)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	ドイツ語圏グローバル理解
	フランス語Ⅰ(24)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	フランス語圏グローバル理解
	フランス語Ⅱ(24)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	フランス語圏グローバル理解
	中国語Ⅰ(23)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	中国語圏グローバル理解
	中国語Ⅱ(23)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	中国語圏グローバル理解
	韓国語Ⅰ(25)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	朝鮮語圏グローバル理解
	韓国語Ⅱ(25)	2	1	03	外国語ベーシックⅠ	外国語ベーシックⅠ	朝鮮語圏グローバル理解

《初修外国語の扱い》

- ・経済学部夜間主コースの学生については、放送大学の「中国語Ⅰ」及び「中国語Ⅱ」を修得した場合は、本学の「初級中国語」とし、それぞれ1単位を要件単位に含めることができる。

令和7年12月5日 新潟大学教育基盤機構 教学マネジメント部門

(6) 忘れ物・盗難

Q 教室(総合教育研究棟)に忘れ物をしましたが、鍵が掛かっています。

A 教務課教育実施係に申し出てください。「学生証」を預かり、引き換えに鍵を貸出します。なお、実験室・体育館については、授業担当教員に問い合わせてください。

Q 総合教育研究棟で落とし物をしました。

Q 落とし場所がわかりません。

A 総合教育研究棟の講義室内での落とし物、忘れ物は学生支援課学生係(総合教育研究棟A棟1階②番窓口)で保管しています。持ち主が確認できた場合のみ連絡します。個人が特定できるものや貴重品以外は、④番窓口近くの「忘れ物保管棚」で確認することができます。

A 大学構内の落とし物は、学生支援課学生係(総合教育研究棟A棟1階②番窓口)で保管しています。また、各学部の学務係でも、当該学部校舎内の落とし物を保管していますので、心当たりの学部の学務係も訪ねてみてください。

※落とし物は、時間が経ってから見つかることがあります。保管場所を訪ねて見つからなかった場合でも、時間をおいて確認してみてください。なお、落とし物の保管期限は1年です。保管期限が過ぎたものは処分します。

Q 学生証をなくしたときはどのようにすれば良いのですか。

A 速やかに所属する学部の学務係(医学部及び歯学部の第1年次学生は教務課)で再発行の手続きをとってください。なお、再発行には所定の費用(2,200円程度)が必要です。

Q 盗難にあったときはどのようにすれば良いのですか。

A 警察に届け出るとともに、所属する学部の学務係又は、学生支援課学生係(総合教育研究棟A棟1階②番窓口)に報告してください。

残念なことですが、学内において盗難が頻発しています。現金、貴重品は常に身につけるなど各自で対策をお願いします。特に体育実技の授業においては更衣室の鍵のかかるロッカーを利用するか、体育教員の指示に従って保管するようにしてください。

(7) その他

Q 身体の具合が悪くなったときはどのようにすれば良いのですか。

Q 誰か倒れました。

A 学生支援課学生なんでも相談窓口(総合教育研究棟C棟1階, 025-262-7648)へ連絡してください。または、直接、保健管理センターへ行ってください。保健管理センターには医師、看護師が常駐しています。

Q 授業中にけがをしたときはどのようにすれば良いのですか。

A 保健管理センターあるいは最寄の医療機関でけがの処置をした後、所属する学部の学務係へ届け出てください。学生教育研究災害傷害保険等に加入している場合は、保険金請求の手続きをすることが可能です。(77ページ参照)

Q レポートの提出先はどこですか。

A レポートの提出先は教員の指示を良く確認してください。提出先が「教務課レポートボックス」となっている場合は、総合教育研究棟A棟1階ロビー内に設置されている「レポートボックス」に入れてください。レポートボックスには受付中の科目ラベルが貼付されていますので、科目名・担当教員・提出期限等をよく確認し、間違いのないように十分注意してください。もし科目ラベルが無い科目は、提出期限が切れているか提出先が違うことが考えられます。

Q 資料配付ボックスがあると聞いたのですが。

A 総合教育研究棟A棟1階ロビー内の「教務課レポートボックス」上に資料配付ボックスが置かれています。

Q 保護者が転居しました。

Q 実家の住所が変わりました。

A 速やかに、所属する学部の学務係に届け出てください。

Q 総合教育研究棟の外の掲示板に掲示をしたいのですが。

Q 課外活動等で総合教育研究棟を利用したいときはどのようにすれば良いのですか。

A 学生支援課学生係（総合教育研究棟A棟1階②番窓口）に申し出てください。

Q 休学(又は退学)したいときはどのようにすれば良いのですか。

A 所属する学部の学務係に申し出てください。

Q CAPとは何ですか？

A 履修登録できる上限単位数です。

各授業科目の単位数は、大学設置基準において「一単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とする旨、定められています。大学設置基準に則り、新潟大学学則第49条においては、「授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。」と定めています。具体的には、30時間の授業をもって1単位とする授業科目の場合、45時間から30時間を引いた15時間は授業時間外(教室外)の学修を必要とすることを意味していますので、学生は自主的に学修を行い、学力の充実をはからなければなりません。授業時間外での学修時間を十分確保し、内実ある学修をなし得るように、各学期において履修できる単位数の上限を定めているのがCAP制です。なお、CAP制を施行している学部としていない学部があります。詳細は、所属する学部の学務係で確認してください。

Q GPAとは何ですか？

A Grade Point Averageの略で、履修した授業の成績の平均を示す指標です。

GPAを施行している学部としていない学部があります。詳細は、所属する学部の学務係で確認してください。

Q 新潟大学の無線LANに接続できない。

A セキュリティキーを間違えて入力していないか確認してください。また、DNSサーバに8.8.8.8などのパブリックDNSサービスを入力していると接続できませんので、自動的に取得する設定にしてください。

次のページ (<https://www.cais.niigata-u.ac.jp/service/wireless/#faq>) を確認してください。

Q 授業で利用するパソコンにOffice製品をインストールしたい。

Q 授業で利用するパソコンにウイルス対策ソフトをインストールしたい。

A パソコン操作全般に関する問合せは、情報基盤センターパソコン相談室へ問い合わせてください。

お問い合わせフォーム <https://www.cais.niigata-u.ac.jp/contact/>
メール question@cais.niigata-u.ac.jp

MEMO